

令和5年度
上宮太子高等学校
学校評価関係

1. 建学の精神・教育目標・中期的目標
2. 規定
3. 各部署の年間計画及び重点目標
4. 各部署の中間報告
5. 各部署の総括
6. 授業アンケート分析
7. 学校評価に関する報告書
8. 学校関係者評価に関する報告書

1 建学の精神

本学園は浄土宗を母体とし、法然上人の仏教精神を教育の根底におく学校である。知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」は、高校生として生徒一人一人が、人間としてあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と意思を持ち、理想を求めて主体的に行動することを説いている。

また、学順「一に掃除・二に勤行・三に学問」とは、校訓を実現させるための具体的な行動を示している。「掃除」とは文字通り周辺の環境美化を意図するとともに、学ぶ心の準備を意味する。「勤行」とは勤勉実行を意味する。それは一生を通して求められる生活の行動指針であり、学校生活では学業や課外活動にも規範意識を持って精進努力することであり、社会人となれば強い勤労意欲を持つことである。「学問」は勤行から得られる知識と健康な心身を土台として、未知への探究心や自らの疑問を解決する能力としての智慧を養うことである。すなわち、先ず心を清めて素直な心がけを第一とし、次に己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずと身に備わり、その真価を発揮できることを示している。

2 教育目標（目指す学校像）

- ① 仏教精神に基づく幅広い人間教育をおこなう。
- ② 勉学精進による英才開発、育成をめざす。
- ③ 豊かな自然と歴史に包まれた教育環境の中で、バランスのとれた人格を養う。
- ④ 人を思いやり、人に愛され、また信頼され、社会に貢献できる人づくりをめざす。

3 中期的目標

- ① 礼節を重んじ、常識を身に着け、生きる力を養う
- ② 細やかな指導により学力を向上させ、各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させる
- ③ 各教科が授業力向上のための研究
- ④ 生徒の愛校心の向上
- ⑤ 受験者数の安定的確保に向けての広報活動
- ⑥ 健全かつ安定的な財務・経営をめざす

上宮太子高等学校 学校評価に関する規定

平成 23 年 3 月 17 日 制定

令和 4 年 6 月 24 日 改定

(趣旨)

第 1 条 この規定は、学校教育法施行規則第 66 条及び第 67 条に基づき、学校法人上宮学園が設置する上宮太子高等学校における教育活動その他学校運営状況に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 学校法人上宮学園が設置する上宮太子高等学校（以下「学校」という。）が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取り組みの目標を策定し、その達成状況を検証かつ評価することにより改善を図り、学校教育の質的向上に資するために必要な事項を定めるものとする。

(学校評価)

第 3 条 学校評価は、自ら行う自己評価ならびに保護者及びその他の関係者が、学校の自己評価の結果を踏まえて評価する学校関係者評価とする。

第 4 条 自己評価の改善方策の実施のため、学校に学校評価委員会を設置する。

2 学校評価委員会は、自己評価及び学校関係者評価の計画・立案・進行管理・改善策及び結果の公表を行う。

(学校評価委員会)

第 5 条 学校は、第 3 条に定める自己評価のため、学校長、学校参事、教頭、事務長、教務部学校評価係を委員とする学校評価委員会を設置する。

2 学校長は、委員長として学校評価委員会を主宰する。学校評価係は、委員長を補佐し学校評価委員会の会務を推進する。

(自己評価項目)

第 6 条 学校における学校評価委員会は、学校の教育目標に基づき、長・中期及び単年度の重点目標並びに教育活動その他の学校運営に係る評価領域・項目を定める。

2 自己評価を実施するについては、生徒による授業評価、生徒及び保護者に対する学校評価外部アンケートの調査結果も活用する。

(学校関係者評価)

第7条 学校における学校関係者評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。人数は5名程度とする。

- (1) 保護者会役員の中から学校長が委嘱する委員
- (2) 学校卒業生の中から学校長が委嘱する委員
- (3) その他、必要に応じて学校が選出する委員

2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

3 学校における学校関係者評価委員会に委員長を置く。

4 学校における学校関係者評価委員会の委員長は、当該学校関係者評価委員会の会務を総理する。

5 学校における学校関係者評価委員会は、学校の学校運営の改善に資するための必要な助言を付して、自己評価に対する検証結果を学校長に報告する。

6 学校における学校関係者評価委員会が必要と認めたときは、第7条第1項各号に定める委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

7 委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。その職を退いた後も同様とする。

(評価結果の報告)

第8条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果と今後の改善方策をまとめ、学園の理事会(理事長)に提出するものとする。

(評価結果の公開)

第9条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果の一部を、ホームページ等で外部に公開するものとする。

(事務の所管)

第10条 この規定に関する事務は、学校の学校評価委員会が行う。

附 則

1 この規定は、平成23年3月18日から施行する。

2 第5条を、校務分掌の一部見直しにより令和4年6月24日に改訂する。

3 この改正規定は、令和4年7月1日より施行する。

令和5年度
学校評価に関する
各部署の重点目標

上宮太子高等学校
学校評価委員会

部署名	教務部	担当者	田中 良和
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教務クラウドシステム (BLEND) の円滑な運用 ・ オープンキャンパス、入試説明会等の生徒募集に繋がる行事の精査と更なる充実 ・ 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携 ・ 考査規定、5段階基準等の教務内規の再検討 ・ コロナ禍明けにおける学校行事の実施に向けた企画・運営・検討
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教務内規の再検討 ・ 国際理解教育の推進 ・ 有効な指導体系の継続検討 ・ 不登校生徒に通信方法を用いた教育による単位認定の検討

2. 令和5年度の実行計画

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 教務運営システムの整備・効率化</p> <p>① 学校行事の確実な実施と改良 ※入念な準備、実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存・次年度への引継ぎ等</p> <p>② 教務各係の業務内容の点検・整備</p> <p>③ 教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知</p> <p>④ 教務クラウドシステムの円滑な運営</p> <p>(2) 有効な指導体系の継続検討</p> <p>⑤ 新カリキュラム移行期における校内整備</p> <p>⑥ ICTの導入による新しい教授法の検討</p> <p>(3) 国際理解教育の推進</p> <p>⑦ 社会の動きに併せながら対応をしていく</p> <p>(4) 「朝の学び」の状況把握と調整</p> <p>⑧ 進路指導部と連携のもと運営する</p> <p>(5) 不登校生徒に通信方法を用いた教育による単位認定の検討</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

--

部署名	生徒指導部	担当者	尾山 友昭
-----	-------	-----	-------

「魅力にあふれる上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

(短期目標) ※本年度に取り組む目標			
教育相談	1 教職員への啓発・発信	2 スクールカウンセラーと教職員との連携	3 教育相談室の活用
生徒会	1 生徒会活動の活性化	2 委員会活動の活性化	3 広報活動 4 クラブ活動の活性化
生活指導	1 校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上		2 生徒指導の推進と問題行動の予防強化 3 道徳意識、規範意識の向上（頭髪服装検査強化） 4 生徒の愛校心向上
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標			
教育相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。		
生徒会	生徒主導による各種活動		
生活指導	事故がなく安心して生活できる学校づくり		

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
教育相談 1. 研修会への参加、そして報告 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布 2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催 3. 担任・学年・係を中心に取り組む 4. 不登校、配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討 生徒会 1. 生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等） 2. 委員会活動の活性化 3. 広報活動（入試説明会・オープンキャンパス・地域行事参加・リーフレットの作成） 4. クラブ生を主体とした学校の活性化 5. インターアクトクラブの活動活性化 生活指導 1. 校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上のための取り組み 2. 教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取組みの実施 3. 身だしなみチェックを実施し、生徒心得遵守を促す 4. 生活委員会の活動を活性化 5. 生徒指導会議の開催			

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

制服、生徒心得の見直し、検討。

部署名	進路指導部	担当者	福田和憲
-----	-------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

(短期目標) ※本年度に取り組む目標		
I. 進学実績の目標達成	II. 基礎学力の向上	III. 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標		
IV. 主体性を育む教育	V. 戦略的改革	

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
【進路企画関係】 I. 進学実績の目標達成 (高校3年) a 国公立大学14以上合格 b 関関同立25以上合格 c 産近甲龍100以上合格 II. 基礎学力の向上 (高校1年・2年) d 進研模試偏差値52以上を学年の2割以上 e 進研模試偏差値46以上を学年の5割以上 f atama+模試の有効活用による成績向上 g 「自走」の推進と教員の関わりの指導 【ICT教育推進関係】 III 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦 h Microsoftのプラットフォーム整備 i iPadの新しい使用法の模索 j 教員のiPad使用を進める k 緊密な情報共有による相互サポート 【探究関係】 IV. 主体性を育む教育 l 探究活動の推進 (高校1年・2年) 【全体】 IV. 戦略的改革 m 生産性の高い進路指導体制構築 n 教科への新学習指導要領への対応と啓蒙 o 先生方を巻き込んだ学校全体の意識改革			

※**遂行度**: 各項目の進捗状況 / **達成度**: 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**: [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

部署名	入試対策部	担当者	佐々木 哲也
-----	-------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 受験者数確保に向けての広報活動</p> <p>(2) 効果的な広報物を制作・活用</p> <p>(3) 情報の収集・共有化</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p style="text-align: center;">受験者数の安定的確保</p>

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 受験者数確保に向けての広報活動</p> <p>受験者数 200 人、最低でも募集定員 175 人を確保するためには、より多くの保護者、生徒、塾・中学の先生に、上宮太子の名前と良さを案内し、専願で受験してもらうことが必要。</p> <p>① 主要な公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。</p> <p>② 受験生や保護者に直接的にアプローチをする。</p> <p>できるだけ多くの外部ブースに参加し、中学・塾においても生徒・保護者対象説明会に参加させてもらえるよう働きかける。</p> <p>③ 校内に足を運んでもらうことが一番大事なので、校外説明会で会った生徒・保護者や、毎週土曜日に実施する Zoom における Online 説明会で申し込みのあった生徒に対して、是非とも学校見学に来てもらえるよう働きかける。</p> <p>オープンキャンパスで人数を確保し、早い段階で太子を気に入ってもらい専願者を増やす。</p> <p>(2) 効果的な広報物を制作・活用</p> <p>上宮太子への興味関心を持ってもらうには、ホームページやパンフレット、リーフレットなどが重要となる。広報係との連携のうえ効果的な広報物を制作し募集活動に活用する。</p> <p>① 早い時期から三つ折りリーフを主要な中学の全生徒に配布することで上宮太子に対して興味を持ってもらう。</p> <p>② ICT ツールを活用してきめ細やかな広報活動を行う。</p> <p>③ 上宮太子の紹介動画と高 1 生の紹介写真を、主要な中学に持参し、掲示してもらい、後輩たちに見てもらうことで興味を持ってもらう。</p> <p>(3) 情報の収集・共有化</p> <p>世間のニーズに合わせて、上宮太子の良さをアピールし、効果的な広報活動を行うことが必要。</p> <p>情報収集と情報の共有化を図り、教職員一丸となって広報活動が行えるようにする。</p> <p>① 校外で知り得た情報を定期的に先生方へ伝え、校内では生徒たちの様子や、日常における些細な行動などの情報などもこまめに収集し塾・中学に伝え、面倒見の良さをアピールする。</p> <p>② 上宮高校や上宮学園中学校との情報共有を発展させ、3 校で連携をとり、学園全体で広報活動を行う。</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： { A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない }

3. 今後取り組む内容

部署名	国 語 科	担当者	八 内 宇 弘
-----	-------	-----	---------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新課程教授法の研鑽 および共通テスト、私立大学入試研究の継続的な研鑽 ・ICT 機器を活用した、生徒との双方向のやりとりを実現する授業形態の模索 ・生徒たちが国語を積極的に学びたいと思えるような「生徒目線」での関わり
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト平均点 (特進Ⅰ類) 文系7割5分、理系6割5分以上 ・国語科全教員による、新課程の指導要領に沿った双方向のやりとり、表現力の育成を中心とした新しい授業形態の確立および共有

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>1、 授業改革による生徒の読解力・表現力の向上</p> <p>① 生徒の学習定着をはかるための方策研究</p> <p>② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み</p> <p>③ 職員同士での国語力向上についての意見交換</p> <p>④ 教科横断型授業への取り組み</p> <p>2、 各学年での学習指導内容の研究</p> <p>①特進Ⅰ・Ⅱ類</p> <p>模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 →共通テスト、国公立の大学入試に即応できる実力養成 難関私立大学への進学を視野に入れた実力養成</p> <p>②総合進学</p> <p>→推薦入試への対応 小論文対策</p> <p>→公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善 新学習指導要領に向けた授業改革</p> <p>→アクティブラーニングの研究、授業への導入</p> <p>→ロイロノートを軸とした、iPad 活用法を研究した授業展開</p> <p>3、 教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック</p> <p>① 予備校・大学主催の研修会などへの積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ</p> <p>② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催</p> <p>③「新課程研修会」「記述講座」「研究授業」など、教科内の教員による勉強会の実施</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

部署名	社会科	担当者	前田 良仁
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1)授業の厳正化と社会科としての強化</p> <p>(2)教科会の活性化</p> <p>(3)入試問題の研究 (本校入試問題及び大学入試問題)</p> <p>(4) 新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究</p>

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。</p> <p>②社会科の授業が好きになる工夫をする。</p> <p>③高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす</p> <p>④授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80%を上回る。</p> <p>⑤社会科に関する研修会などへの積極的な参加。</p> <p>⑥高校 3 年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。</p> <p>(2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。</p> <p>②授業見学会実施</p> <p>③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。</p> <p>(3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。</p> <p>②大学入学共通テスト、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。</p> <p>(4)①新カリキュラムへ向けての研鑽</p> <p>②ICT の活用の在り方を研究していく。</p> <p>③新教科(歴史総合や探究)への対応</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

--

部署名	数学科	担当者	茶田 昌蔵
-----	-----	-----	-------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の厳正化 2. 数学力の向上 3. 教科会の活性化 4. 研修への積極的な参加
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特進Ⅰ類, 特進Ⅱ類, 総合進学各コースにおける指導方針の統一 2. 理系進学希望者の増強 3. 理系大学進学率の向上

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の厳正化 <ol style="list-style-type: none"> ①個々のより深い教材研究と教材の共有 ②研究授業の実施 ③各コースの特性を見据えた指導計画と実践 2. 数学力の向上 <ol style="list-style-type: none"> ①家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ②各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ③特進Ⅰ類コースの国公立大合格率向上 ④特進Ⅱ類コースの関関同立大学合格率向上 ⑤総合進学コースの一般入試合格率向上 (指定校・学校推薦型入試を有効活用するとともに、一般入試に対応できる学力をつける) 3. 教科会の活性化 <ol style="list-style-type: none"> ①連絡の徹底と教科内の共通認識 ②教科における情報交換と研修 4. 研修への参加 <ol style="list-style-type: none"> ①アクティブラーニングやICTについての研修を受け、教授法を学び教科会で検討、導入していく。 ②新学習指導要領によるカリキュラム構成, 評価方法を研修し、各コースの最適な授業実践計画を検討する。 			

※**遂行度**: 各項目の進捗状況 / **達成度**: 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**: [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

--

部署名	理 科	担当者	石川 修二
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
① 指導力の向上、授業内容の充実	② 大学入試に対応できる学力の定着
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
・ ICT 機器を適切に利用した教材の研究	・ 観点別評価基準およびシラバスの検討

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① ・ 指導力の向上、授業内容の充実 a 理科に対する興味・関心の向上、自然観の養成につながる実験や観察の実践 b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践 c ICT機器を用いた授業や、機器内で使用する教材および新課程の研究 d 関西国公立、有名私立などの入試問題の研究 e 観点別学習状況の評価基準の検討 ② 大学入試に対応できる学力の定着 f 生徒に合わせた補講習・単元テストの実施 g 「やり直しノート」の作成・提出、および復習の重要性を意識させる指導の徹底。課題の与え方の検討および改善 h 個々の生徒に寄り添う指導の実践。			

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

部署名	英語科	担当者	今塩屋誠
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p style="text-align: center;">予習・授業・復習のサイクルを徹底と音声を重視した授業を確立させること。</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>模試成績を総合進学コースは毎回1ポイント、特進コースは毎回2ポイント上げる</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>・①英語力の向上にむけて ロイロノートなどを使ってこまめに予習のノートチェックをします。</p> <p>復習のための小テストを総合進学クラスでは単元終了毎に1回程度、特進クラスでは、<u>ほぼ毎回</u>実施します。それを平常点に加味します。</p> <p>セブ島のオンライン英会話を1、2年生全クラスに導入していますが、授業でも音声を重視した指導をします。</p> <p>辞書を授業中に<u>毎回</u>調べさせて、活用します。</p> <p>② 生徒の実情に合わせて、模試に対応できる教材を発掘すること。</p> <p>③ 特進I類では共通テストの全国平均をリーディング、リスニングとも10%超えること。</p>			

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

--

部署名	保健体育科	担当者	内藤 哲也
-----	-------	-----	-------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する ・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する ・ シラバスの作成 ・ iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した授業の研究・実践
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器を利用した視覚化授業の実践

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない			
集団行動の様式の習得と実践（静と動） 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操			
服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用			
各種目の技術習得 個人技能と集団技能			
運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する			
各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得			
ICTの導入 iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践していく			
心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED使用方法			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

--

部署名	芸術科	担当者	阪口 雅則
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>1. 各行事への協力、取り組み。</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。</p> <p>3. 評価、評定について協議する。</p>

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>1. 行事への協力、取り組み。</p> <p>① 聖徳書道展への協力。</p> <p>② 芸能鑑賞等、教務部との連携。</p> <p>2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。</p> <p>① 表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽 演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術 絵画表現（描写、着彩）と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道 楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。 <p>3. 評価、評定の方法について協議する。 観点別学習状況の中で「知識・技能」、「思考・判断力・表現」についての研究。</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

--

部署名	家庭科	担当者	植田梨絵子
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 家庭科に対する学習意欲の向上・発展</p> <p>② 実践的・体験的な活動を意識させ、生活を改善する意欲と態度を育成</p> <p>③ ジェンダーレス社会を見据えた教育推進</p> <p>④ 教材の見直し・整備</p> <p>⑤ タブレット学習の実施計画</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>・将来へ興味関心を高める教材や授業の工夫</p> <p>・自己のライフデザインを自主的に進められる人材育成</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 家庭科に対する学習意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の内容を深め、関連した資料や情報を添付する。 ・課題の未提出者等は催促し、必ず提出させる。 ・他教科（主に現代社会）にも通じるような授業を展開する。 <p>② 実践的・体験的な活動を意識させ、生活を改善する意欲と態度を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につかせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。 <p>③ ジェンダーレス社会を見据えた教育推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高め、共に協力し、助け合えるよう自立を促す。 <p>④ 教材の見直し・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮し、主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題をみつけ、展開できる問題解決を図る教材を検討する。 ・情報化に対応し、生活と家庭科との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。 <p>⑤ タブレット学習の実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科で活用することで、デバイスの操作に慣れることや意見の共有や刺激を受けるよう、デジタルでのアウトプットの回数も増やす。 			

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

部署名	情報科	担当者	須藤 秀裕
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① より良い授業内容にするための検討</p> <p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>④ 大学入試科目への対応</p>

2. 令和5年度の実行内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① より良い授業内容にするための検討</p> <p>a 学習効果の高い実習課題の検討</p> <p>b 教科書に準拠した補助教材の研究</p> <p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <p>c プログラミング教育に関する教材研究</p> <p>d カリキュラムを含めた授業計画案の検討</p> <p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p> <p>e 「情報科」大学入試導入に関する情報収集</p> <p>f 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加</p> <p>④ 大学入試科目への対応</p> <p>g 共通テストに関する情報収集</p> <p>h 共通テストへの対策</p>			

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

部署名	宗教科	担当者	柴田 直毅
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①校訓、学順の理解</p> <p>②授業内容のさらなる充実</p> <p>③宗教行事の理解と実践</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>ICTを活用した授業の実践、自ら考えを論述、表現できる力の育成</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 校訓、学順の理解</p> <p>(1) 授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。</p> <p>(2) 礼儀作法について学習、実践をする。</p> <p>② 授業内容のさらなる充実</p> <p>(1) 授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。</p> <p>(2) 生徒の理解に適した授業を展開する。</p> <p>③ 宗教行事の理解と実践</p> <p>(1) 授業において宗教行事の由来、意義を学習する。</p> <p>(2) ICTによる授業、宗教行事の理解</p>			

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

部署名	高1学年	担当者	松井 康浩
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある生徒指導</p> <p>(2) 生徒・保護者・教員的意思疎通</p> <p>(3) 特に英語・数学・国語を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立</p> <p>(4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>(1) 校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある生徒指導</p>

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある生徒指導</p> <p>① 法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導</p> <p>② 「明るく」「正しく」「仲良く」でも「厳しく」を意識した生徒指導</p> <p>③ メリハリのある行事企画と充実</p> <p>(2) 生徒・保護者・教員的意思疎通</p> <p>① 家庭と学校との綿密な連携</p> <p>② 効果的なLHRや学年集会の実施</p> <p>(3) 特に英語・数学・国語を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立</p> <p>① 『立腰』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり</p> <p>② 競争することを意識した学習への取り組み</p> <p>③ 毎日早朝テストを実施することによる毎日の家庭や通学時間を利用した学習の習慣の確立</p> <p>④ 定期考査前の補習の実施</p> <p>※総合進学コースの目標</p> <p>① 良き生活習慣の確立</p> <p>② 模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値50をめざす。</p> <p>③ 高1終了段階で英語検定3級の全員合格をめざす。</p> <p>※特進I・II類コースの目標</p> <p>① 良き生活習慣の確立</p> <p>② 模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値50を下回らないこと。そして、全国偏差値60をめざす。</p> <p>③ 高1終了段階で英語検定準2級の全員合格をめざす。</p> <p>(4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通</p> <p>① 学年担当者会議の可能な限りの実施</p> <p>② 職員室内における日常の会話による生徒の情報交換</p>			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

部署名	高校2年	担当者	漁野篤史
-----	------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協働力を高め、人道を知り、公共心を育む。 2. 自律性を養い、自己効力感を高める。 3. 知識を身につけ、好奇心を育み、基礎学力と学習習慣を身につける。 (100人以上に偏差値46以上、40人以上に偏差値52以上の学力をつける。)
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>校訓「正思明行」を体現した、自走できる生徒づくり (三五力の完成)</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 協働力を高め、人道を知り、公共心を育む。 (1) 役割を与え、励まし、協力し合える環境を整える。 (学級活動の活性化) (2) 他人のために、できることを考えさせる。 (人権、宗教、青少年赤十字活動) 2. 自律性を養い、自己効力感を高める。 (1) 自分達のことは自分達でできる様にする。 (日直・係) (2) 「やればできる」を合言葉に、達成感を感じる取り組みを行う。 (褒めて育てる) 3. 知識を身につけ、好奇心を育み、基礎学力と学習習慣を身につける。 (1) 模試や定期考査に対する意識を高め、準備と振り返りの習慣を身につける。 (自由参加型の講習と表彰制度) (2) 学力不振層に対する強制補習の通年実施 (集い) 			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

--

部署名	高3学年	担当者	茶田 昌蔵
-----	------	-----	-------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標)※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 校訓「正思明行」・学順の実践</p> <p>(2) 生徒・保護者・教員の意思疎通</p> <p>(3) 進学指導</p> <p>(4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通</p> <p>(中・長期目標)※数年計画で達成したい目標</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導</p> <p>②参列者全員が感動の思い出に残る卒業式の実施</p> <p>(2)①家庭と学校との綿密な連携</p> <p>②効果的なLHRや学年集会の実施</p> <p>(3)①『合掌』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり</p> <p>②競争することを意識した学習への取り組み</p> <p>③毎日の家庭学習の習慣の確立</p> <p>④定期考査前の補習の実施</p> <p>※総合進学コースの目標</p> <p>①良き生活習慣の確立</p> <p>②「産近甲龍」大学進学に向けた学力の向上</p> <p>※特進Ⅱ類コースの目標</p> <p>①良き生活習慣の確立</p> <p>②「関関同立」大学進学に向けた学力の向上</p> <p>※特進Ⅰ類コースの目標</p> <p>①良き生活習慣の確立</p> <p>②国公立大合格に向けた指導</p> <p>(4)①学年担当者会議の可能な限りの実施</p> <p>②日常の会話による生徒の情報交換</p>			

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
[C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

--

部署名	人権教育	担当者	柴田 直毅
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成</p> <p>②育てる人権教育の実践</p> <p>③いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>学校生活の中で人権問題(友達との関係、SNS、LINEによる問題など)を認識する。</p>

2. 令和5年度の実施内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS、インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する</p> <p>②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動) 相手の立場、気持ちを理解する</p> <p>③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する、 差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践</p>			

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

部署名	保健管理	担当者	西巻 裕子
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る 2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践 3. 健康相談活動における心のケアと各分掌と連携、情報の共有化 4. 学校保健組織活動の円滑な推進とチーム力の促進 <p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p>

2. 令和5年度の実行計画

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 感染症の予防と発生時の迅速な対応、学校保健情報の集約 ② 救急処置の迅速な対応と連携が取れるマニュアル化 ③ 配慮を必要とする生徒の支援について、個別のニーズに応じた支援のあり方を示し、共通理解を図る <p>2. 自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> ① けがの予防、感染症や生活習慣病、がん教育等の予防教育（数値化をして具現化、ICTを活用した予防教育） ② 本校が抱える健康課題で心の健康について、自尊感情を大切に、心因性体調不良の減少を目指す心の教育の実践 ③ 保健室 HP の充実、ICT を活用して、心身の健康に関する情報発信を推進する。特に Health care news を読んでもらえるようにアンケートをとり、工夫・改善を行う。 <p>3. 健康相談活動における心のケアと各分掌との連携、情報の共有化</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 心の問題を的確に把握するために生徒一人一人への声がけと全教職員との情報交換を密に図る ② SC と生徒指導部教育相談係、関係職員との組織的連携、共通理解を図る。(ICT を活用した予約調整、相談) ③ 不登校に至る予兆・前段階での把握と対応で減少を目指す <p>4. 学校保健組織活動の円滑な推進とチーム力の促進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校保健委員会、労働安全衛生委員会の円滑かつ組織的運営の確立、臨時委員会の適宜開催 ② 生徒保健委員会の主体的な活動のサポート（本校独自性のある啓発活動、心身の健康に関する探究・学び合いと情報発信、評価につなげる） ③ 災害共済請求給付業務に関する学園本部との連携 			

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**：{ **A** 予定通り進んだ / 顕著に成果があった **B** ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
} **C** あまり進んでいない / あまり成果がでていない **D** 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容

--

部署名	図書教育	担当者	植田梨絵子
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①学校司書と協働した図書室の運営管理の充実</p> <p>②書籍の充実</p> <p>③委員会を主体とした読書啓発活動の推進</p> <p>④図書室行事や利用者向上のための広報活動</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>・OPAC 利用や蔵書管理システムの有効活用</p> <p>・公的図書館や近隣大学との連携</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 学校司書と協働した図書室の運営管理の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀伊國屋書店と連携を図り、業務の効率化や蔵書管理の徹底を行う。 <p>② 書籍の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な視野やジャンルレスな本の選書を心がけ、さまざまな書店や図書館と意見交換を行う。 <p>③ 委員会を主体とした読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の条件を提示し、積極的に活動ができる生徒を募集し、図書室利用や読書推進に貢献する生徒を育てる。 <p>④ 図書室行事や利用者向上のための広報活動や</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室のイベント企画を計画的に行う。 ・活動の機会を増やすよう探究や HR、各教科での活用を促す。 ・教職員の利用を促進させる。 ・授業や行事で活用する連絡を徹底し、作業の計画が崩れないようにする。 ・授業で利用しやすいよう工夫をする。 (資料の整備や本の提案など) 			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

部署名	広 報	担当者	澁 昭嘉
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度生徒募集につながる広報物の発行 ・ブログの更新回数や SNS を活用した効果的な広報活動の検討・実施。 ・近隣地域に向けた広報活動の充実。(道路沿いの横断幕、バス側面の広告等) ・入試対策部及び新しい広報委託業者との連携強化。
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体や説明会ブースを削減し、広報費用のコスト削減を図る。 ・今後の広報戦略における立案を図る。

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 本校ホームページの更なる改良</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報委託業者と連携を図り、ホームページが利便性の高い状態を維持する。 			
<p>(2) ブログの更新回数増加とアップ内容の精査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのアップ内容を精査し、日常的に学校の情報を発信することを目指す。 			
<p>(3) 近隣地域に向けた広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見やすく、インパクトのあるものを作成する。 			
<p>(4) SNS活用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代に合わせた広報活動を追究する。 			
<p>(5) 学園財政を鑑み、広報費用の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実績をもとに費用対効果の高いものを選定し広報活動を行う。 			

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

--

部署名	事務室	担当者	松井 保
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 生徒・保護者・教員とのコミュニケーションの充実</p> <p>② 企画・運営に関する事務</p> <p>③ 校内・教育環境のさらなる整備</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>生徒獲得に向け、学校の課題を真摯に考え、時代や地域のニーズを踏まえた特色のある学校づくりを教員とともに実現していく。</p>

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 生徒・保護者・教員とのコミュニケーションの充実 事務室は、生徒や保護者との窓口として重要な役割を担っていると考えられる。コミュニケーションが円滑であることは、学校全体の雰囲気を良くし、生徒や保護者の信頼を獲得するために欠かせない。そのためには事務室が、生徒や保護者からの問い合わせに素早く対応し、丁寧な対応を心がける。また、情報共有の面でも、教職員とのコミュニケーションを密にし、情報の漏れや抜けを防ぐことが重要である。うっかりミスを防ぐためにも積極的にメモを取るなど、工夫を凝らしたい。</p> <p>② 企画・運営に関する事務（昨年度継続） 積極的に学校の課題を把握する。また、その課題の改善策を多角的かつ多面的な観点を踏まえながら、提案・実現していく。</p> <p>③ 校内・教育環境のさらなる整備 生徒・教職員全てが安全で快適に過ごすことのできるように老朽化した部分のリニューアルを推進する。今年度は予算的に厳しいので、外壁以外の大規模なリニューアルは難しいが優先順位を付けて確実に進めたい。</p>			

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

令和5年度
学校評価に関する
各部署の中間評価報告

上宮太子高等学校
学校評価委員会

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	教務部	責任者名	田中 良和
(短期目標) ※本年度に取り組む目標			
<ul style="list-style-type: none">・ 教務クラウドシステム（BLEND）の円滑な運用・ オープンキャンパス、入試説明会等の生徒募集に繋がる行事の精査と更なる充実・ 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携・ 考査規定、5段階基準等の教務内規の再検討・ コロナ禍明けにおける学校行事の実施に向けた企画・運営・検討			
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標			
<ul style="list-style-type: none">・ 教務内規の再検討・ 国際理解教育の推進・ 有効な指導体系の継続検討・ 不登校生徒に通信方法を用いた教育による単位認定の検討			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容			
<p>学校行事においては全てがコロナ禍前に戻りつつある。従来までの教育活動に戻しつつも、より良いものになるよう改良を加える段階である。教務部内の各係から出た課題や問題点を集約し、改善に向けて取り組んでいきたい。</p>			
【年度末に向けての検討事項】			
<ul style="list-style-type: none">・ 現行カリキュラムの見直し、スリム化への検討。・ 観点別評価及び新教務システムの円滑な運用。・ 教務内規・考査規定の再検討。・ 早朝テストの効果的な運営方法。・ ICTを活用した更なる授業の改良。			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	生徒指導部	責任者名	尾山 友昭
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>【生活指導】</p> <ul style="list-style-type: none">①「正思明行」の実践・生徒の規範意識の向上のための取り組み②問題行動の予防強化③生活委員会の活動の活性化 <p>【生徒会】</p> <ul style="list-style-type: none">①生徒が主体的に動ける行事の運営②広報活動 (Instagram・ホームページへの協力)③クラブ生を主体とした学校の活性化 <p>【生徒会】</p> <ul style="list-style-type: none">①スクールカウンセラーからの啓発・発信②スクールカウンセラーと教員との連携・情報共有③教育相談室の活用			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>【生活指導】</p> <ul style="list-style-type: none">・事故のない学校づくり・生徒が自律できる学校生活・「生徒心得」の在り方、制服・制定品の検討 (実情に合わせたルール作り) <p>【生徒会】</p> <ul style="list-style-type: none">①生徒が主体的に動ける行事の運営②広報活動 (Instagram・ホームページへの協力)③クラブ生を主体とした学校の活性化 <p>【生徒相談】</p> <ul style="list-style-type: none">①スクールカウンセラーからの啓発・発信②スクールカウンセラーと教員との連携・情報共有③教育相談室の活用			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>【生活指導】 生活委員会の活動が活発に行われていない為、活性化に向けての取り組み。 身だしなみチェックの実施方法及び生徒心得の見直し。 制定品の見直し。</p> <p>【生徒会】 来年度、行事が40回目となる為、40回目の行事企画 クラブ生を主体とした学校の活性化</p>			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	進路指導部	責任者名	福田和憲
-----	-------	------	------

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

【進路企画関係】

I. 進学実績の目標達成(高校3年)

a 国公立大学14以上合格 b 関関同立25以上合格 c 産近甲龍100以上合格

II. 基礎学力の向上(高校1年・2年)

d 進研模試偏差値52以上を学年の2割以上 e 進研模試偏差値46以上を学年の5割以上

f 模試の事前・事後指導、結果分析 g 家庭学習の推進

【ICT教育推進関係】

III 「iPadが動く学校」の展開への意欲的な挑戦

h Google、Microsoftのプラットフォーム整備 i iPadの新しい使用法の模索

j 先生方のiPad使用を進める k 緊密な情報共有による相互サポート

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

【探究関係】

IV. 主体性を育む教育

l 探究活動の推進(高校1年・2年)

【全体】

V. 戦略的改革

m 生産性の高い進路指導体制構築 n 教科への新学習指導要領への対応と啓蒙

o 先生方を巻き込んだ学校全体の意識改革

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

【進路企画関係】学習指導については、新たに atama+模試や朝日新聞時事ワークシートを導入して様子を見ているが、実際、目に見えた変化は感じられず、取り組みが思ったように進んでいない。特に来年度にむけてスタディサプリの活用を中心とした5教科の学習支援策を中心に改善点を整理・分析し、来年度からの準備に繋げていきたい。

【ICT教育推進関係】Microsoft365の活用は思ったように進まず、この半年間については新しい取り組みを行えていない。ICTの部署としては改善点も多く、さらに前進すべく研究を重ねる必要がある。

【探究関係】今年度から新主任のもと、新たな探究の動きを模索すべく、大阪高等学校(探究コース)への視察やサポート業者の再選定など、新しい取り組みを開始している。しかし、今年度は実際のところ走りながら模索している部分も多く、来年度に向けての早急な年間計画立案が必要である。

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	入試対策部	責任者名	佐々木哲也
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 受験者数確保に向けての広報活動</p> <p>昨年度からの変更点として、総合進学コース専願者の3教科受験で評定を点数化しないことや、出前授業、クラブ応援制度などをアピールすることで関心を持ってもらう。</p> <p>校外での説明会において、他校も総動員で参加していたので、本校でも今年度は多くの先生方が参加することで元気のある太子をアピールできた。</p> <p>(2) 効果的な広報物を制作・活用</p> <p>今年度も、中学ごとに1年生のコメント付きの写真を作成して持参し、多くの中学生に見てもらえるようにした。6月にはじめてクラブ体験を実施し、専用のリーフレットも作成し、配布した。三つ折りリーフレット、クラブ体験リーフレット、オープンリーフレット、行事リーフレット、出前授業、学校見学リーフレット、DATABOOK についても必要な時期に作成し中学・塾に配布した。特に近隣の重要な中学には人数分のリーフレットを持参した。</p> <p>(3) 情報の収集・共有化</p> <p>渉外活動において知り得た情報については、入試対策部内で共有化を行っている。ミライ会議でもできるだけお伝えするようにしている。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>入試対策部として対外的に案内するにあたって、中3生や保護者が高校に何を求めているかなどのニーズをしっかりと理解し、今後の太子のあり方を決めて、未来の高校をリードする上宮太子をアピールすることで注目をしてもらう。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>最低でも募集定員175名を確保しなければならない。中期・長期計画で上宮太子のブランドを作ることも大事だが、今年度関わってくれた中3生に対して、あと2ヶ月でどう受験に結びつけて、専願に持っていか検討していく。多くの中3生が太子に足を運んでくれたので、入試対策部としては、参加してくれた生徒が在籍している中学・塾に訪問し、専願の魅力を伝えていく。クラブとしても残りの期間で顧問がどう動くかがポイントになってくる。</p>			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	国語科	責任者名	八内 宇弘
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none">・ 新課程教授法の研鑽 および共通テスト、私立大学入試研究の継続的な研鑽・ ICT 機器を活用した、生徒との双方向のやりとりを実現する授業形態の模索・ 生徒たちが国語を積極的に学びたいと思えるような「生徒目線」での関わり			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none">・ 共通テスト平均点 (特進 I 類) 文系 7 割 5 分、理系 6 割 5 分以上・ 国語科全教員による、新課程の指導要領に沿った双方向のやりとり、表現力の育成を中心とした新しい授業形態の確立および共有			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ ICT 機器を利用した授業の活性化・ 共通テスト、私立大学入試研究・ 新課程教授法の研鑽・ 国語科教員への研修			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	社会科	責任者名	前田 良仁
-----	-----	------	-------

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

- (1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。
 - ②社会科の授業が好きになる工夫をする。
 - ③高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす
 - ④授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80%を上回る。
 - ⑤社会科に関する研修会などへの積極的な参加。
 - ⑥高校3年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。
- (2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。
 - ②授業見学会実施
 - ③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。
- (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。
 - ②大学入学共通テスト、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。
- (4)①新カリキュラムへ向けての研鑽
 - ②ICTの活用の在り方を研究していく。
 - ③新教科(歴史総合や探究)への対応

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

- (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。
- (4)②大学入学共通テスト、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。
 - ①新カリキュラムへ向けての研鑽
 - ②ICTの活用の在り方を研究していく。
 - ③新教科(歴史総合や探究)への対応

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

短期の目標に関しては、それぞれが検討し、概ね達成しているように思われる。授業見学会実施が思った以上にできていないのが、やや難である。実習や新任研修としてはできているが、教員同士の部分はまだ少ないと感じられる。ただ、9月からの色々な変更点により、時間的な余裕がないのも事実である。

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	数学科	責任者名	茶田 昌蔵
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none">1. 授業の厳正化2. 数学力の向上3. 教科会の活性化4. 研修への積極的な参加			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ol style="list-style-type: none">1. 特進Ⅰ類, 特進Ⅱ類, 総合進学各コースにおける指導方針の統一2. 理系進学希望者の増強3. 理系大学進学率の向上			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">・教科会を中々とれないこと・数学の授業研修会は3学期実施予定			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	理科	責任者名	石川 修二
-----	----	------	-------

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

- ① 指導力の向上、授業内容の充実
 - a 実験や観察による理科に対する興味・関心の向上、自然観を養成
→各科目において、授業の要所で実験を積極的に行っている。
 - b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践
→高3を中心に、各大学の問題を演習形式で生徒に実践させている。
 - c ICT機器を用いた授業や、機器内で使用する教材の研究、および新課程の研究
→デジタル教材やネット上の動画データなどを利用し、より生徒が理解しやすい教材を作成する。
 - d 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題の研究
→進研模試を中心に、共通テストや私大対策に取り組んでいる。
 - e 観点別学習状況の評価基準の検討
→現在も継続して検討している。
- ② 大学入試に対応できる学力の定着
 - f 生徒の実情に合わせた補講習・単元テストの適宜実施
→適宜実施できている。
 - g 「やり直しノート」の作成・提出、および復習の重要性を意識させる指導の徹底
課題の与え方の検討・改善
→学年ごと、習熟度に合わせて指導を展開している。
 - h 個々の生徒に寄り添う指導の実践
→各教員が生徒からの質問に速やかに答えることを実践している。

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

- ICT 機器を適切に利用した教材の研究
→次年度から専門教科の内容が変更されることに合わせて、継続して検討する。
- 観点別評価基準およびシラバスの検討
→上記同様、検討する。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

- ・授業に楽しんで参加するということから、大学受験に向けての学習への取り組みへの移行。
- ・実験は好きだが、計算や文字の記入、授業を長く聞けないといった生徒への対応。

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	英語科	責任者名	今塩屋誠
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>予習・授業・復習のサイクルを徹底している先生方がほとんど信じたいが、確認する余裕もないの現状です。</p> <p>小テスト実施や音声を重視して、辞書を使った授業もしてくれているでしょう。</p> <p>オンライン授業の前に何か自ら英語を発する授業を現在模索中です。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>模試成績の上昇は特進Ⅰ類が何とかなっているだけに思います。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p>			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健体育科	責任者名	内藤 哲也
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none">・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する →各授業の中で、生徒への指導を継続中・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する →各授業の中で、生徒への指導を継続中・ シラバスの作成 →進んでいない・ iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した授業の研究・実践 →各授業の中で、生徒への指導を継続中 <p>●できるだけ主観の採点基準をなくすように工夫し、誰が教科担当になっても同じような評価が出来るように細かな授業内容、採点方法を教科で統一することに力を入れる。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none">・ ICT 機器を利用した視覚化授業の実践 →研修会の実施を含めて検討中			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 出前授業の実施・ まだ実施されていない項目に関しては進める努力をおこなう			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	芸術科	責任者名	阪口雅則
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>行事への協力、取り組みについて。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 聖徳書道展において案内発送、展示のレイアウト及び展覧会の運営に協力できた。・ 上宮祭において文化的な発表面で協力できた。			
<p>【中・長期目標】 ※数年計画で達成したい目標</p> <p>(1) 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 三科目とも実技を中心に行いながら歴史的なことにも触れ、進められている。 <p>(2) 評価評定の方法について協議する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 教科会にて何度か評定のあり方について会議をしているが、今も進行中である。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 芸術科は、五教科では選べない部分を教えるべきだと考えているので、評価評定についてもどうあるべきか、継続して考えていきたい。			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	家庭科	責任者名	植田 梨絵子
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 家庭科に対する学習意欲の向上・発展</p> <p>② 実践的・体験的な活動を意識させ、生活を改善する意欲と態度を育成</p> <p>(①②の内容) 青年期に家庭科教育が必要なのかを伝え、実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度の育成は、身近な生活からの知識を精査し、習得したその知識を生かすことができるように促す。</p> <p>③ ジェンダーレス社会を見据えた教育推進</p> <p>多角的にとらえられる視点を私自身も意識し、学習しながら、生徒と共にタイバーシティー化している社会を見据えていけるように各分野の授業を展開していきたい。</p> <p>④ 教材の見直し・整備</p> <p>新学習指導要領のため、教科書や評価が大きく変化しているため、大部分の見直しを図っている。効果的な情報を収集し、わかりやすく授業で伝えられよう精査している。</p> <p>⑤ タブレット学習の実施計画</p> <p>計画的に行いたい、クラスの授業数が合わせにくいため、授業時間の調整として活用している。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来へ興味関心を高める教材や授業の工夫 <p>生活に密着している教科であることを再認識させ、定期テストの対策のための授業にならないよう、実践的な学習を進めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己のライフデザインを自主的に進められる人材育成 <p>18歳成人をもっと意識させ、進路選択や社会における責任の在り方を学ばせていきたい。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>タブレットを含めたデバイスを活用した授業を増やし、思考を発展的にさせ、主体的な学習が評価につながられるよう工夫をする必要がある。昨年に引き続き、各分野でのルーブリックをさらに明確にし、公平でわかりやすいものにしていきたい。生活の中から様々な学習になるよう意識づけも強化していきたい。</p>			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	情報科	責任者名	須藤 秀裕
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① より良い授業内容にするための検討</p> <p>a 学習効果の高い実習課題の検討については、現在も検討を継続している。</p> <p>b 教科書に準拠した補助教材の研究については、現在取り組んでいる。</p> <p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <p>c プログラミング教育に関する教材研究については、現在も継続している。</p> <p>d カリキュラムを含めた授業計画案の検討については、現在取り組んでいる。</p> <p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p> <p>e 「情報科」大学入試導入に関する情報収集については、現在も継続している。</p> <p>f 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加については、オンラインでの参加はしている。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>④ 大学入試科目への対応</p> <ul style="list-style-type: none">・ 共通テストに関する情報収集については、現在も継続している。・ 共通テストへの対策については、現在、使用教材を検討している。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ すでに取り組んでいる項目については、今後も継続して実施する。・ まだ、取り組めていない項目については、今後実施できるように努力する。			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	宗教科	責任者名	柴田直毅
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none">●授業開始の「一枚起請文」奉読は声を出して奉読する組もありますが、黙読している組もあります。生徒の自主性を第一にしていきたいです。●パワーポイントを利用して授業展開、内容を工夫・検討しています。●体育館での行事（御忌式、校祖誕生会など）が再開され、本来の形式に戻りました。物故者追悼会は実施されませんでした。			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>立腰からの合掌、一枚起請文の奉読号令を係の生徒に発声してもらっています。</p> <p>生徒が分かりやすい、興味関心をもつ教材を研究したいです。</p> <p>ロイロノートも活用したいです。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>各コースに応じた授業内容の工夫を検討しています。</p> <p>生徒が少しでも関心が持てる教材を日々研究していきたいです。</p>			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高1学年	責任者名	松井康浩
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある生徒指導</p> <p>(2) 生徒・保護者・教員の意思疎通</p> <p>(3) 特に英語・数学・国語を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立</p> <p>(4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある生徒指導</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>各クラスによって、それぞれの学習面・生活面において課題があるが、適宜対応できていると思われる。年度末に向けては、特に学習面を中心に強化していきたい。</p>			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高校2年	責任者名	漁野篤史
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none">1. 協働力を高め、人道を知り、公共心を育む。2. 自律性を養い、自己効力感を高める。3. 知識を身につけ、好奇心を育み、基礎学力と学習習慣を身につける。 <p>(100人以上に偏差値46以上、40人以上に偏差値52以上の学力をつける。)</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>校訓「正思明行」を体現した、自走できる生徒づくり (三五力の完成)</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <ol style="list-style-type: none">1. (1) 学級活動の活性化<ul style="list-style-type: none">・上宮祭実行委員会を立ち上げ、企画・運営に取り組ませた。参加した生徒には貴重な体験になったと思う。2学期後半に予定している修学旅行では、彼らがリーダーとなって、よい行事になると思われる。(2) 人権、宗教、青少年赤十字活動<ul style="list-style-type: none">・今年度は行事を企画できていない。学級活動の中で、自分以外の人のためにできることを考えさせたい。2. (1) 日直・係<ul style="list-style-type: none">・日直による朝礼・終礼を通じて、主体的な行動力を養っている。引き続き、教員が手を離せる場を作っていきたい。(2) 褒めて育てる<ul style="list-style-type: none">・学びみらいPASSの結果などから、生徒の強みを引き出したい。3. (1) 自由参加型の講習と表彰制度<ul style="list-style-type: none">・コースごとに講習を設定し、運営している。進研模試や英語検定への意識は昨年より高まっている。(2) 集い<ul style="list-style-type: none">・緊張感に満ちた環境で、参加者の学力は確実に向上している。			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高3学年	責任者名	茶田 昌蔵
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 校訓「正思明行」・学順の実践</p> <p>(2) 生徒・保護者・教員の意思疎通</p> <p>(3) 進学指導</p> <p>(4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>・ 公募制推薦で合格できる指導。チャレンジ校、滑り止め校の明確化は徹底できている。</p>			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	人権教育	責任者名	柴田直毅
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>人権 LHR において、1年生は1学期「誰かのことじゃない インターネット編」、2学期「身近にひそむネットの使い過ぎ」、2年生は1学期「誰かのことじゃない 感染症編」、2学期「震災発生時の危機対応」、3年生は1学期「成年年齢18歳」「18解禁」「新成人たちよ、未来をつくれ」、2学期「SNS 裏アカウント操作について」を学習しました。大半の生徒は自らの意見を記入してくれました。</p>			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>人権 LHR において学習したことが、授業でのタブレット利用に活かされるよう指導していきたいです。SNSによる問題について、自分の立場に置き換えて考えてほしいです。</p>			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>インターネット、SNS、仲間づくり、学校生活、日常生活の中にある問題を考え、今の時代に相応した事象を研究していきたいです。</p>			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	保健管理	責任者名	西巻 裕子
-----	------	------	-------

(短期目標) ※本年度に取り組む目標

1、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る

- ①5類に引き下げられても、学校感染症による出席停止者は現在まで64名(うち新型コロナ55名)である。引き続き、ウイルスの変異等の感染症情報を注視しながら、学校感染症状況の集約を円滑に行う。
- ②配慮を必要とする生徒や不登校支援においては、役割分担と情報共有を深めチーム力向上を目指す。
- ③救急車の要請が必要な事故が多くあった。迅速かつ適切な対応ができるように、ヒヤリハットのシミュレーションをして、定期的に救急処置対応の訓練を行う。

2、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践

- ①免疫力や学力・集中力向上、ケガ防止に結び付く生活習慣の改善を目指す。前期では睡眠の実態と質を高める工夫についてのアンケート調査を行った。保健委員会で Youtube 動画を作成した。後期では食生活の質の改善に取り組む。
- ②起立性調節障害や過敏性腸症候群、頭痛等の身体的症状が HSP (Highly Sensitive Person) や家庭環境、人間関係のトラブルが要因で心の問題が体の不調をきたして来室する生徒が多くみられる。心のケアを重点的に行いその要因と解決の糸口を探る。また、養護教諭だけでなく関係職員と連携を図る。また研修会等に積極的に参加して指導力を高める。

3、健康相談活動における心のケアと各分掌との連携、情報の共有化

- ①朝や放課後の挨拶をきっかけに、生徒一人一人への声がけとコミュニケーションを深める。健康観察と合わせて表出できない心の問題を推察する。
- ②SC と連携して専門的機関につなげる。

4、学校保健組織活動の円滑な推進とチーム力の促進

- ①学校保健に関連する臨時委員会を適時適切に開催できるように推進する。
- ②生徒保健委員会の主体的な活動のサポートとして専門医等と連携した疾病予防動画の作成。(食生活)

(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標

- ・学校医をはじめとする学校保健委員会の組織化、推進化を図る。
- ・Health care room (保健室のホームページ開設) 等で ICT の活用・情報発信に努め、将来へ繋ぐ予防教育を実践する。
- ・業務のスリム化を行い、生徒への健康相談活動に関われる時間を多くとれるように工夫する。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

- ・管理職や各分掌と行事前などに事前に打合せや相談が必要である。
- ・学校ホームページのリニューアルに伴い、Health care room (保健室の HP) からの情報発信ができていく状況である。Health care news (保健だより) だけでなく、健康情報、生徒保健委員会活動、取り組み等様々な情報発信ができるように ICT 委員とも連携し検討していきたい。
- ・心の問題に対して生徒との信頼関係を築いていきながら、関係機関・教職員との情報共有・連携に苦慮している。保健室の機能と養護教諭の専門性を発揮して、一人でも多くの生徒の心に寄り添う。
- ・交通事故や体育や部活動、校内におけるケガ等の未然防止に努める。

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	図書教育	責任者名	植田 梨絵子
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 学校司書と協働した図書室の運営管理の充実</p> <p>学校司書(紀伊国屋書店)と学校司書教諭が密に連携を図り、イベントの計画・実施・振り返りなどを徹底し、安定した図書室運営を目指している。</p> <p>② 書籍の充実</p> <p>2学期から保護者の貸し出しも可能にし、利用者が増えている。今まで楽器にまとめて本の選定をしていたが、選定の期間を短くして、購入分を分散化させ、常に目新しい書籍があるように進めている。表に出す本が新しいものばかりではなく、興味を持ってもらいたいテーマをその都度決めて、特集を組んで、古い書籍でも価値のあるものを前面にアピールしていきたい。</p> <p>③ 委員会を主体とした読書啓発活動の推進</p> <p>前期・後期制にしたため、活動内容を定着させることができ、委員の条件を提示することで、読書に関して意識が高い生徒が集まるようになった。また司書とのコミュニケーションを図ることが浸透してきたので、発展的な啓発活動も提案していきたい。</p> <p>④ 図書室行事や利用者向上のための広報活動</p> <p>司書を中心に図書室のイベントや予定の発信を、広報ポスター(校内6か所)の掲示、UTLibraryNews(生徒・教職員・保護者)の配信、授業活用による利用者の促進など積極的な利用を促している。</p> <hr/> <p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none">・OPAC利用や蔵書管理システムの有効活用 まだ書籍情報が不備な点もあるため、さらに詳細検索ができるよう書籍の踏力情報の見直しや追加・削除を常に更新していく予定である。・公的図書館や近隣大学との連携 近隣図書館とコミュニケーションを図り、生徒も地域への参加を図書室から提案していけるよう図書委員を中心に考えていきたい。 <p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>図書教育活動の認知が学内でもまだ低いと感じる。生徒だけでなく、教職員の読書活動や図書室利用を積極的に啓発していきたい。「魅力ある図書室」が担当者たちだけの自己満足にならないように、他校の事例や出版業界、書店の情報などを集約させ、効果的に活用していく必要がある。また、地域とのつながりや保護者を通じた交流も深めていき、「図書室の魅力」だけでなく、読書への興味関心・学校の特色になりうるよう発展させていきたい。</p>			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	広 報	責任者名	澁 昭嘉
<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none">・次年度生徒募集につながる広報物の発行 ⇒入試対策部と連携のもと、必要な時期に必要な広報物が完成できるような計画を立ててきた。事前の打ち合わせを重ねることでポスター、学校案内、三つ折りリーフレットなど予定通りに作成することが出来、概ね遂行出来ている。・ブログの更新回数や SNS を活用した効果的な広報活動の検討・実施。 ⇒行事に関しては、内容の詳細が分かる文章と写真をアップして充実を図っているが、滞ることもあるので広報内で分担をしてリアルタイムに情報を発信していきたい。 また中学生ユーザーが多い公式インスタグラムでは、生徒会役員生徒が主導となり、生徒目線で学校情報も発信しており、一定のフォロワー数を確保している。・近隣地域に向けた広報活動の充実。 ⇒毎月太子町の広報誌に広告(イベント情報)を掲載し、地元太子町へのPR活動を行っている。また女子のラグビー部員の全国大会出場を讃え、横断幕の作成を行った。			
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none">・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体や説明会ブースを削減し、広報費用のコスト削減を図る。			
<p>現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容</p> <p>学校案内、ホームページ管理において、アプリスと連携を図りながら作成を進めている。今後の入試説明会、入試本番の動向を見極めながら次年度につながる広報戦略について共有認識のもと、共に完成度の高い仕事をしていきたい。</p>			

令和5年度各部署の中間評価

報告書

部署名	事務室	責任者名	松井保
(短期目標)※本年度に取り組む目標 ① 生徒・保護者・教員とのコミュニケーションの充実 ② 企画・運営に関する事務 ③ 校内・教育環境のさらなる整備			
(中・長期目標)※数年計画で達成したい目標 生徒獲得に向け、学校の課題を真摯に考え、時代や地域のニーズを踏まえた特色のある学校づくりを教員とともに実現していく。			
現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容 上記短期目標②に関して、日々の通常業務に追われてしまい事務室として積極的に学校の課題を把握するところまで追い付けていないので、あらゆる機会をうまく捉えて課題の発見に努めなければならない。 また、年度末に向けては大掛かりな改修は望めない中ではあるが、小規模であっても改修しなければならない部分があるので、しっかりと計画を立てて遂行したい。			

令和5年度
学校評価に関する
各部署の総括

上宮太子高等学校
学校評価委員会

部署名	教務部	担当者	田中 良和
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教務クラウドシステム (BLEND) の円滑な運用 ・ オープンキャンパス、入試説明会等の生徒募集に繋がる行事の精査と更なる充実 ・ 労働時間の遵守及び就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携 ・ 考査規定、5段階基準等の教務内規の再検討 ・ コロナ禍明けにおける学校行事の実施に向けた企画・運営・検討
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教務内規の再検討 ・ 国際理解教育の推進 ・ 有効な指導体系の継続検討 ・ 不登校生徒に通信方法を用いた教育による単位認定の検討

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 教務運営システムの整備・効率化</p> <p>① 学校行事の確実な実施と改良 ※入念な準備、実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存・次年度への引継ぎ等</p> <p>② 教務各系の業務内容の点検・整備</p> <p>③ 教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知</p> <p>④ 教務クラウドシステムの円滑な運営</p>	B	B	① 各部署との連携を図り、先生方の協力のもとで学校行事を円滑に進めることが出来た。実務面でも課題改善に向けて、更に内容の充実を図りたい。
<p>(2) 有効な指導体系の継続検討</p> <p>⑤ 新カリキュラム移行期における校内整備</p> <p>⑥ ICTの導入による新しい教授法の検討</p>	B	B	⑤ 移行期での内容の点検を図った。
<p>(3) 国際理解教育の推進</p> <p>⑦ 社会の動きに併せながら対応をしていく</p>	B	B	⑥ 各教科で検討をしてもらった。
<p>(4) 「朝の学び」の状況把握と調整</p> <p>⑧ 進路指導部と連携のもと運営する</p>	C	C	⑦ 海外修学旅行・海外語学研修は実施出来なかった。高1・2でのオンライン英会話のみ実施することが出来た。
<p>(5) 不登校生徒に通信方法を用いた教育による単位認定の検討</p>	B	C	⑧ 学年によって実施状況にバラつきがあり、次年度に向けて改善が必要である。
	A	A	⑨ 年度途中で内規附記に追記を図り、2学期から導入した。今後、制度の運用面においての精査を図りたい。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍明けの1年となり、すべての学校行事が従来通りの方法で遂行することが出来た。今後は以前までの踏襲ではなく、生徒たちの満足度および教育的効果の高いものになるように企画・運営を図りたい。 ・ 「朝の学び」については、各学年の状況に応じた内容となっており、学校全体で統一したものを確立することが出来なかった。朝の10分の使い方を、進路指導部と連携しながら運営方法を検討していきたい。 ・ 今年度内に導入した内規附記「起立性調節障がい等による不登校生徒に寄り添うオンライン等を用いた出席に関する規定」を引き続き、検討を重ねていく。
--

部署名	生徒指導部	担当者	尾山 友昭
-----	-------	-----	-------

「魅力にあふれる上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

(短期目標) ※本年度に取り組む目標			
教育相談	1 教職員への啓発・発信	2 スクールカウンセラーと教職員との連携	3 教育相談室の活用
生徒会	1 生徒会活動の活性化	2 委員会活動の活性化	3 広報活動 4 クラブ活動の活性化
生活指導	1 校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上		2 生徒指導の推進と問題行動の予防強化 3 道徳意識、規範意識の向上（頭髪服装検査強化） 4 生徒の愛校心向上
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標			
教育相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。		
生徒会	生徒主導による各種活動		
生活指導	事故がなく安心して生活できる学校づくり		

2. 令和4年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
教育相談			
1. 研修会への参加、そして報告 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布	B	B	課題としては、研修会等に参加した報告を全教員へ報告できるようにする。 予定通り実施することが出来た。
2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催	B	A	
3. 担任・学年・係を中心に取り組む	B	B	教育相談室の利用も含め取り組むことが出来た。 不登校対策委員会にて適宜の対応が出来た。
4. 不登校、配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討	A	A	
生徒会			
1. 生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等）	B	B	生徒会役員が主体的に動くというよりも殆ど支持をしないと動かない生徒が多い。 各委員会ご担当の先生方に任せっきりになってしまい委員会の開催や総括が出来なかった。 ふれあい TAISHI 参加・入試説明会でボランティアとして参加した。 各クラブで自主的に活動した。 活発に活動を行った。
2. 委員会活動の活性化	C	C	
3. 広報活動（入試説明会・オープンキャンパス・地域行事参加・リーフレットの作成）	A	A	
4. クラブ生を主体とした学校の活性化	C	B	
5. インターアクトクラブの活動活性化	A	A	
生活指導			
1. 校訓「正思明行」・学順の実践、規範意識の向上のための取り組み	B	C	顕著な取り組みはできなかった。 教員一律指導がまだまだ整っていないのが現状 情報はシェアしながら進めていた 身だしなみチェック（月1回）実施し生徒も気を付けて整えていた。 「コトバで学校を明るくしよう」キャンペーンなど、頻度は少ないが定期的な活動はできた。 週1回の会議は開催できた。
2. 教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取組みの実施	B	B	
3. 身だしなみチェックを実施し、生徒心得遵守を促す	A	A	
4. 生活委員会の活動を活性化	C	B	
5. 生徒指導会議の開催	A	B	

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容

<p>「制服検討委員会」を発足し、令和8年度の制服改訂に向けて検討と始める。 世間の情勢や他校の情報を集め、生徒心得の見直し・改編を含め、検討する。</p>
--

部署名	進路指導部	担当者	福田和憲
-----	-------	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
I. 進学実績の目標達成	II. 基礎学力の向上
III. 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦	
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
IV. 主体性を育む教育	
V. 戦略的改革	

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
【進路企画関係】			
I. 進学実績の目標達成 (高校3年)			
a 国公立大学14以上合格	A	A	合格数17 難関校複数合格
b 関関同立25以上合格	B	C	合格数17
c 産近甲龍100以上合格	B	C	合格数87
II. 基礎学力の向上 (高校1年・2年)			
d 進研模試偏差値52以上を学年の2割以上	D	D	新しい取り組みもなく、達成に大きく至らず
e 進研模試偏差値46以上を学年の5割以上	D	D	新しい取り組みもなく、達成に大きく至らず
f atama+模試の有効活用による成績向上	C	D	効果的に活用できず、継続は断念
g 「自走」の推進と教員の関わりの指導	C	C	「自走」への具体的な方策の指針が不足
【ICT教育推進関係】			
III 「iPad が動く学校」の展開への意欲的な挑戦			
h Microsoftのプラットフォーム整備	B	B	新しく「TEAMS」を整備
i iPadの新しい使用法の模索	B	C	ロイロノート以外の広がりが必要
j 教員のiPad使用を進める	B	B	日常的な使用はほぼできている
k 緊密な情報共有による相互サポート	C	C	各分掌や教科との連動性はまだ発展途上
【探究関係】			
IV. 主体性を育む教育			
l 探究活動の推進 (高校1年・2年)	C	C	探究活動の方向付けや生徒への指導など、まだ発展途上。教員研修も必須。
【全体】			
IV. 戦略的改革			
m 生産性の高い進路指導体制構築	B	B	将来の進路に意識を向けさせるシステムはほぼ構築されているが、教員への啓蒙、意欲的な
n 教科への新学習指導要領への対応と啓蒙	C	C	学校改革にはつながっていない。
o 先生方を巻き込んだ学校全体の意識改革	C	C	

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容

<p>新時代の要請と現状の旧態依然とした授業スタイルのずれ、生徒の学力や意欲（特に総合進学コース）、教員の意識など、学校全体の学習指導を早急に見直す必要がある。</p> <p>この改善をはかるにあたり、全てを連動させて抜本的に改革すべく、進路指導部内に新たに「学習指導」部門を立ち上げる。学校全体で新しい教育へのアップデートに取り組むことで、生徒達の自己肯定感を上げ、自走できる生徒を育成する事を目的とし、現状からの脱却を目指す。</p> <p>また、進路指導部全体で、特に今まで中々手を加えられなかった部分に意識的に切り込み、各学年担当がタッグを組んで生徒を前向きに動かしていけるよう、サポートしていきたい。</p>

部署名	入試対策部	担当者	佐々木 哲也
-----	-------	-----	--------

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 令和5年度の重点目標

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
(1) 受験者数確保に向けての広報活動	(2) 効果的な広報物の制作・活用 (3) 情報の収集・共有化
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	受験者数の安定的確保

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 受験者数確保に向けての広報活動</p> <p>受験者数 200 人、最低でも募集定員 175 人を確保するためには、より多くの保護者、生徒、塾・中学の先生に、上宮太子の名前と良さを案内し、専断で受験してもらうことが必要。</p> <p>① 主要な公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。</p> <p>② 受験生や保護者に直接的にアプローチをする。</p> <p>できるだけ多くの外部ブースに参加し、中学・塾においても生徒・保護者対象説明会に参加させてもらえるよう働きかける。</p> <p>③ 校内に足を運んでもらうことが一番大事なので、校外説明会で会った生徒・保護者や、毎週土曜日に実施する Zoom における Online 説明会で申し込みのあった生徒に対して、是非とも学校見学に来てもらえるよう働きかける。</p> <p>オープンキャンパスで人数を確保し、早い段階で太子を気に入ってもらい専断者を増やす。</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ体験、オープンキャンパス 3 回、入試説明会 4 回、および外部説明会に於いて、昨年よりも多くの保護者・受験生に参加して頂き、直接話をさせてもらうことができた。校内行事や学校見学を通じて上宮太子に足を運んでもらい、より上宮太子に触れ、知ってもらうことで受験者数の増加に繋がった ・コロナもある程度落ち着いてきたので、Online 説明会参加者は 1 名だけであった。その分学校見学には多くの受験生が来てくれた。
<p>(2) 効果的な広報物の制作・活用</p> <p>上宮太子への興味関心を持ってもらうには、ホームページやパンフレット、リーフレットなどが重要となる。広報係との連携のうえ効果的な広報物を制作し募集活動に活用する。</p> <p>① 早い時期から三つ折りリーフを主要な中学の全生徒に配布することで上宮太子に対して興味を持ってもらう。</p> <p>② デバイスを活用してきめ細やかな広報活動を行う。</p> <p>③ 上宮太子の紹介動画と高 1 生の紹介写真を、主要な中学に持参し、掲示してもらい、後輩たちに見てもらうことで興味を持ってもらう。</p> <p>④ 世間のニーズに合わせて、上宮太子の良さをアピールし、効果的な広報活動をする必要がある。</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学・塾訪問では、外部説明会・校内行事に参加してくれた生徒の話や、在校生の近況報告を詳細に伝えることで安心して送ってもらえるようにした。 ・学校見学リーフレット、および出前授業リーフレットはかなり効果があったと思われる。 ・動画に関しては、新たな映像がないので中学に対して持参していない。視覚に訴えるものは必要だと感じる。
<p>(3) 情報の収集・共有化</p> <p>情報収集と情報の共有化を図り、教職員一丸となって生徒獲得を行う。</p> <p>① 校外で知り得た情報を定期的に先生方へ伝え、校内では生徒たちの様子や、日常における些細な行動などの情報などもこまめに収集し塾・中学に伝え、面倒見の良さをアピールする。</p> <p>② 上宮学園中学校や上宮高校との情報共有を発展させ、3 校で連携をとり、学園全体で広報活動を行う。</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・渉外が外部から聞いてきた情報について、渉外担当者の中では共有できるが、校内の先生方との共有化ができていなかった。

3. 今後取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ応援や出前授業がかなり効果を得ていると思われる。この試みをこれからどう広げて、どう案内していくかが大事となる。 ・ミライ会議で様々な意見が出ているので、上宮太子の良さを再確認して、良い案に関してはスピーディに勧めていければ、もっと魅力のある学校に変わっていきけると思われる。 ・中学・塾が独自でやっている説明会などに参加させてもらい、保護者や受験生に直接話ができる機会を作ってもらえるよう働きかける。 ・出前授業や、中学・塾単位で実施している学校訪問の際には、太子を選んでいただけるようお願いする。 ・今までやってきた、丁寧な中学・塾訪問のスタンスを崩すことなく、常に目的を明確にして訪問する。

部署名	国 語 科	担当者	八 内 宇 弘
-----	-------	-----	---------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新課程教授法の研鑽 および共通テスト、私立大学入試研究の継続的な研鑽 ・ICT機器を活用した、生徒との双方向のやりとりを実現する授業形態の模索 ・生徒たちが国語を積極的に学びたいと思えるような「生徒目線」での関わり
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト平均点(特進I類) 文系7割5分、理系6割5分以上 ・国語科全教員による、新課程の指導要領に沿った双方向のやりとり、表現力の育成を中心とした新しい授業形態の確立および共有

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>1、授業改革による生徒の読解力・表現力の向上</p> <p>① 生徒の学習定着をはかるための方策研究</p> <p>② 読解トレーニングと読解力向上への取り組み</p> <p>③ 職員同士での国語力向上についての意見交換</p> <p>④ 教科横断型授業への取り組み</p>	B	C	教科横断型授業への取り組みは実践できなかったが、教員同士でのコミュニケーションを取る機会は非常に多く、建設的な意見交換ができた。
<p>2、各学年での学習指導内容の研究</p> <p>①特進I・II類</p> <p>模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 →共通テスト、国公立の大学入試に即応できる実力養成 難関私立大学への進学を視野に入れた実力養成</p> <p>②総合進学</p> <p>→推薦入試への対応 小論文対策</p> <p>→公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善 新学習指導要領に向けた授業改革</p> <p>→アクティブラーニングの研究、授業への導入 →ロイロノートを軸とした、iPad活用法を研究した授業展開</p>	B	A	
<p>3、教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック</p> <p>① 予備校・大学主催の研修会などへの積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ</p> <p>② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催</p> <p>③「新課程研修会」「記述講座」「研究授業」など、教科内の教員による勉強会の実施</p>	B	B	
	A	A	
	B	A	国公立大学の合格を含め達成できたと思う。
	C	D	iPadを使って授業展開などを行い、大学入試への理解を深めたが、アクティブラーニングはなかなか進めることができなかった。
	A	A	概ね達成できた。
	B	A	研修会の内容を共有できていた。
	C	D	研究授業の予定をなかなか取ることができなかった。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に取り組む姿勢をどう養うべきかを教員同士のコミュニケーションを取り、全体で考える必要がある。 ・研究授業の回数を増やし、国語科全体の指導力向上を行う。 ・従来の教授法に頼ることも大切だが、新課程に対応できるような新たな教授法を創る。

部署名	社会科	担当者	前田 良仁
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 授業の厳正化と社会科としての強化</p> <p>(2) 教科会の活性化</p> <p>(3) 入試問題の研究 (本校入試問題及び大学入試問題)</p> <p>(4) 新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>新カリキュラムへの対応と共に ICT の活用の在り方の研究</p>

2. 令和5年度の実行計画

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。	A	A	<p>授業に関しては各担当者がしっかりと研鑽を積み重ねつつ、授業を展開したため、授業アンケートも評価が高く、生徒たちの反応も良い。</p> <p>ただ、入試に関しては、特に総合進学において、社会を捨ててはでないが、最終的に入試に使わず、公募制入試までで入試が終わり、特進など一部の生徒しか入試に使わない現状は否めない。特進においても、私立大学一般入試においても、二科目受験が関関同立大でもあり、つかわず合格もあり得るのが現状である。</p> <p>教科会においては、今年度、イレギュラーなことで、担当者変更並びに持ちコマ増えるなどのアクシデントにより、二学期に教科会における研修会並びに授業見学会を予定していたが、実施には至らなかったのが現状である。</p> <p>歴史総合などの新カリキュラムなどの対応、並びに研究に関しては外部の業者などにも情報を求めた結果、十分な情報を得られたと思われる。ただ入試は来年度であり、結果は来年度以降となる。</p>
②社会科の授業が好きになる工夫をする。	A	B	
③高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす	B	B	
④授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80% を上回る。	A	A	
⑤社会科に関する研修会などへの積極的な参加。	B	B	
⑥高校 3 年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。	B	B	
(2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。	B	B	
②授業見学会実施	B	B	
③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。	A	A	
(3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。	A	A	
②大学入学共通テスト、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。	A	A	
(4)①新カリキュラムへ向けての研鑽	A	A	
②ICT の活用の在り方を研究していく。	A	A	
③新教科(歴史総合や探究)への対応	A	A	

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

--

部署名	数学科	担当者	茶田 昌蔵
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の厳正化 2. 数学力の向上 3. 教科会の活性化 4. 研修への積極的な参加
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特進Ⅰ類, 特進Ⅱ類, 総合進学各コースにおける指導方針の統一 2. 理系進学希望者の増強 3. 理系大学進学率の向上

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 授業の厳正化 ①個々のより深い教材研究と教材の共有 ②研究授業の実施 ③各コースの特性を見据えた指導計画と実践 2. 数学力の向上 ①家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ②各学年の偏差値2ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ③能力に応じた補習、講習の実施 ④大学入試問題の研究・研修と生徒への還元 ⑤特進Ⅰ類コースの国公立大合格率向上 ⑥特進Ⅱ類コースの関関同立大学合格率向上 ⑦総合進学コースの一般入試合格率向上 (指定校・学校推薦型入試を有効活用するとともに、一般入試に対応できる学力をつける) 3. 教科会の活性化 ①連絡の徹底と教科内の共通認識 ②教科における情報交換と研修 4. 研修への参加 ①アクティブラーニングやICTについての研修を受け、教授法を学び教科会で検討、導入していく。 ②新学習指導要領によるカリキュラム構成、評価方法を研修し、各コースの最適な授業実践計画を検討する。	A D A	A D B	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員が積極的に行っていた ・まったく出来なかった。 ・概ね達成できていた。
	B B	B C	<ul style="list-style-type: none"> ・コースに応じた課題に取り組む事が出来た。 ・概ね達成できていた。学年によって差が生じた
	B C B B B	C C A B B	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細かくすることは出来ていない。 ・研修に参加することは出来ていない。 ・各コースとも模擬試験対策などに時間を費やし徹底して指導したおかげで、全員ではないが、成績が向上する生徒が多く、概ね達成できていた。
	C C	D C	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会が連絡会に終ることが多く、満足のいく教科会にはならなかった。
	C C	D D	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上が必要であったが、研修会などに参加することが出来ていなかった。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<p>教科として、月に一度研究授業を行い、教員同士でスキルアップしたい目標があったが、今年度は行うことが出来なかったため、次年度への課題とする。教材研究を深め、教員同士の意見交換の場を積極的に持ちたい。</p>

部署名	理 科	担当者	石川 修二
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

(短期目標) ※本年度に取り組む目標	
① 指導力の向上、授業内容の充実	② 大学入試に対応できる学力の定着
(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標	
・ ICT 機器を適切に利用した教材の研究	・ 観点別評価基準およびシラバスの検討

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 指導力の向上、授業内容の充実			
a 理科に対する興味・関心の向上、自然観の養成につながる実験や観察の実践	A	A	・ 実験で、生徒の興味を向上させた。
b 大学受験に向けた各学年における実力養成のための方法や課題の研究および実践	B	A	・ 各科目、生徒の実情に合わせた課題の研究および実践に取り組んだ。
c ICT機器を用いた授業や、機器内で使用する教材および新課程の研究	B	B	・ 新課程導入により、各科目研究を継続している。対話型、探求型の課題も検討中。
d 関西国公立、有名私立などの入試問題の研究	B	B	・ 主に高3対象に反映させている。研究は今後も継続していく。
e 観点別学習状況の評価基準の検討	C	C	・ 現行の25点上限では、取り組みの点数化が細かくなりすぎることが課題の1つである。
② 大学入試に対応できる学力の定着			
f 生徒に合わせた補講習・単元テストの実施	A	A	・ 生徒の学習状況に応じた補講習を行った。定期的に確認も行った。
g 「やり直しノート」の作成・提出、および復習の重要性を意識させる指導の徹底。課題の与え方の検討および改善	B	A	・ 課題は適宜行わせた。自宅学習用課題はICT機器を用いて作成、実施した。
h 個々の生徒に寄り添う指導の実践。	A	A	・ 生徒の質問には速やかに対応した。生徒からの要求に応じて演習、講習やを個別指導を実施した。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ 新課程の学習内容に寄り添った指導及び教材の研究 ・ よりわかりやすい授業のための教材研究 ・ 観点別学習評価の評価基準の検討 ・ 自学習につなげていく方法
--

部署名	英語科	担当者	今塩屋誠
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p style="text-align: center;">予習・授業・復習のサイクルを徹底と音声重視した授業を確立させること。</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>模試成績を総合進学コースは毎回1ポイント、特進コースは毎回2ポイント上げる</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>・①英語力の向上にむけて ロイロノートなどを使ってこまめに予習のノートチェックをします。</p> <p>復習のための小テストを総合進学クラスでは単元終了毎に1回程度、特進クラスでは、<u>ほぼ毎回</u>実施します。それを平常点に加味します。</p> <p>セブ島のオンライン英会話を1、2年生全クラスに導入していますが、授業でも音声を重視した指導をします。</p> <p>辞書を授業中に<u>毎回</u>調べさせて、活用します。</p>	A	B	予習をほとんどの先生が課してくれていたと思います。
	C	D	先生方により様々でした
	B	C	授業中の音声活動が少ないクラスはオンライン英会話でもただイエス、ノーだけ答えていることも多いようです。
	C	D	先生方により様々でした。
<p>② 生徒の実情に合わせて、模試に対応できる教材を発掘すること。</p> <p>③ 特進I類では共通テストの全国平均をリーディング、リスニングとも10%超えること。</p>			

※**遂行度**： 各項目の進捗状況 / **達成度**： 各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<p>特進3年生担当でもあり、その指導が中心となりました。</p> <p>授業見学を3学期に行うと生徒主体の授業とは程遠いものもあり、来年度からはマメに授業見学と研究授業を行い、全ての先生方にレベルアップを臨んでほしいと思います。</p>

部署名	保健体育科	担当者	内藤 哲也
-----	-------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する ・ 各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する ・ シラバスの作成 ・ iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した授業の研究・実践
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 機器を利用した視覚化授業の実践

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない	A	A	授業の始業時間厳守は全学年において徹底できた。
集団行動の様式の習得と実践（静と動） 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操	A	B	1年生においては入念に集団行動の実践を行い、生徒にも意識づけ出来た。
服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用	A	B	忘れ物状況、服装の乱れ等、概ね良好であった。
各種目の技術習得 個人技能と集団技能	B	B	毎年運動能力が低下している中、各種目の実践にあたり練習方法を工夫して、生徒の意欲向上に努めた。
運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する	A	A	日々の授業の中で運動することの意義、健康との関りを伝えることが出来た。
各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得	A	A	実戦形式の練習前に十分にルールの説明を行い、生徒理解に努めた。
ICTの導入 iPad、ロイロノート、デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践していく	B	C	種目によっては iPad で自分のフォーム等を撮影し、効率よく技術改善につなげることが出来たが、まだまだ活用の工夫が必要である。
心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED使用方法	A	B	真剣に救命救急の意義を学ぶことが出来た。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ● 規律ある授業実践の継続 ● さらなる ICT の導入 ● 評価の公平性を保つ工夫 ● カリキュラムの改善 ● 技術向上の為のプログラム研究

部署名	芸術科	担当者	阪口 雅則
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>1. 各行事への協力、取り組み。</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。</p> <p>3. 評価、評定について協議する。</p>

2. 令和5年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>1. 行事への協力、取り組み。</p> <p>① 聖徳書道展への協力。</p> <p>② 芸能鑑賞等、教務部との連携。</p>	A /	A /	<ul style="list-style-type: none"> ①においては、入選の賞状を早く書き上げ、賞品と共に発送できた。2回目の体育館での展示およびパフォーマンスも良かったと思う。来校者数も今まで以上に多かった。
<p>2. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。</p> <p>表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽 演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。音楽史の学習。 美術 絵画表現（描写、着彩）と立体表現の指導。美術史の学習。 書道 楷書、行書における用筆法の指導。書道史の学習。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 音・美・書とも、それぞれ工夫を凝らした実技指導を行った。各科目に多少の人数差はあるものの、少人数での授業となったため、一人ひとりの生徒への指導が行き届いたと感じられる。
<p>3. 評価、評定の方法について協議する。観点別学習状況の中で「知識・技能」、「思考・判断力・表現」についての研究。</p>	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 観点別学習状況評価を行っている。ただ、「知識・技能」と「思考・判断・表現力」に分かれているため、作品から判断するのに難しいところがある。継続して協議していきたい。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ・芸術（Iのみ）で何を学ばせるのか再度考えたい。 ・評価についてどうあるべきか、そして観点別学習状況評価の中で「知識・技能」、「思考・判断・表現力」について各科目ごとにより明確に出来るよう考えたい。 ・3年生総合コースで、来年度から「情報」と「生活の中の書」から（2単位）選択での実施が決定している。いずれ音楽についても考えていきたい。
--

部署名	家庭科	担当者	植田梨絵子
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 家庭科に対する学習意欲の向上・発展</p> <p>② 実践的・体験的な活動を意識させ、生活を改善する意欲と態度を育成</p> <p>③ ジェンダーレス社会を見据えた教育推進</p> <p>④ 教材の見直し・整備</p> <p>⑤ タブレット学習の実施計画</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>・ 将来へ興味関心を高める教材や授業の工夫</p> <p>・ 自己のライフデザインを自主的に進められる人材育成</p>

2. 令和5年度の実施計画

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 家庭科に対する学習意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の内容を深め、関連した資料や情報を添付する。 ・課題の未提出者等は催促し、必ず提出させる。 ・他教科（主に現代社会）にも通じるような授業を展開する。 	A	A	<p>①新学習指導要領に基づいた教材の再構築を図り、アプローチをさまざまな角度からできるよう工夫した。課題の催促は何度も行ったが、期限内に合わない生徒がいたので、徹底していききたい。金融教育講演会では現代社会の内容を事前にチェックし、家庭科と内容がかぶる部分を特に強調しながら行い、事後アンケートをとって次につなげられるようにまとめることができた。</p> <p>②技術のスキルが低下しており、基礎的な説明に時間がかかった。能力に合わせた教材や課題設定がもっと必要だった。興味関心を高めることはできたため、真面目に取り組む生徒は多かった。</p> <p>③女性が社会で活躍することを意識し、男女ともに違和感なく当たり前の生活を目指し、共に理解できる社会を自分たちでつくれるよう考えさせることができた。</p> <p>④正しい情報の活用ができるよう、国民生活センターから発刊されている「くらしの豆知識」を利用して、正確な情報発信源がどこであるのか示すことができた。</p> <p>⑤タブレットを授業内で使う上でのルールや方向性を示し、正しい活用の仕方を心掛かせた。いろいろな活用や操作の仕方ができるように教材や授業内容の工夫ができた。</p>
<p>② 実践的・体験的な活動を意識させ、生活を改善する意欲と態度を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。 	A	B	
<p>③ ジェンダーレス社会を見据えた教育推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高め、共に協力し、助け合えるよう自立を促す。 	B	A	
<p>④ 教材の見直し・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮し、主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見つけ、展開できる問題解決を図る教材を検討する。 ・情報化に対応し、生活と家庭科との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。 	B	B	
<p>⑤ タブレット学習の実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科で活用することで、デバイスの操作に慣れることや意見の共有や刺激を受けるよう、デジタルでのアウトプットの回数も増やす。 	C	B	

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容

<p>授業の内容についていけない生徒のフォローするタイミングを速めていきたい。今年度は、成績が厳しい生徒が数名おり、今までにない対応が増えている。今後同じ指導では難しくなっていくことが想定できるので、教材のアップデートと共に対応の方法を考えていきたい。年度によって生徒の雰囲気も違うが、全体的にアウトプットが上手くできない生徒が増えているので、ロイロノートを使った意見をまとめることやプレゼンテーションを積極的に授業内で行っていききたい。また、デバイスの多様な使い方を模索し、教科特性を生かして他教科や先生方に率先して提案していきたい。</p>
--

部署名	情報科	担当者	須藤 秀裕
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① より良い授業内容にするための検討</p> <p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>④ 大学入試科目への対応</p>

2. 令和5年度の実行内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① より良い授業内容にするための検討			
a 学習効果の高い実習課題の検討	A	A	・十分な成果があった。
b 座学で扱う内容の再構成	A	A	・十分な成果があった。
② 新学習指導要領における教材研究			
c プログラミング教育に関する教材研究	A	A	・十分に成果があった。
d カリキュラムを含めた授業計画案の検討	B	C	・十分とは言えなかった。
③ 大学入試制度改革に関する情報収集			
e 「情報科」大学入試導入に関する情報収集	B	C	・十分とは言えなかった。
f 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加	D	D	・参加できなかった。
④ 大学入試科目への対応			
g 共通テストに関する情報収集	C	C	・十分とは言えなかった。
h 共通テストへの対策	B	B	・次年度、教材を導入する。

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**：[A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<p>① より良い授業内容にするための検討</p> <p>② 新学習指導要領における教材研究</p> <p>③ 大学入試制度改革に関する情報収集</p> <p>④ 大学入試科目への対応</p>
--

部署名	宗教科	担当者	柴田 直毅
-----	-----	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①校訓、学順の理解</p> <p>②授業内容のさらなる充実</p> <p>③宗教行事の理解と実践</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>ICTを活用した授業の実践、自ら考えを論述、表現できる力の育成</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 校訓、学順の理解</p> <p>(1) 授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。</p> <p>(2) 礼儀作法について学習、実践をする。</p> <p>② 授業内容のさらなる充実</p> <p>(1) 授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。</p> <p>(2) 生徒の理解に適した授業を展開する。</p> <p>③ 宗教行事の理解と実践</p> <p>(1) 授業において宗教行事の由来、意義を学習する。</p> <p>(2) ICTによる授業、宗教行事の理解</p>	B	C	生徒の挨拶が少ないと思います。教員から積極的に挨拶を実践すべき。
	B	B	授業での合掌、立腰など全員が努力する姿勢が見られた。
	B	B	1年生は声を出して奉読できました。
	B	C	生徒が身近に理解できる授業展開を検討する。
	B	B	生命の樹、追悼会、御忌式の意義を伝え、理解することができた。
	B	C	映像、ニュースを見て学習したが、生徒の理解には課題がある。

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容

<p>映像、ニュースから問題を考え、法然上人、釈尊の教えを理解させることを目標にしていきたいです。仏教読本以外からも積極的に教材を探し、ICTを活用して今までにない宗教の授業を展開していきたいです。</p>

部署名	高1学年	担当者	松井 康浩
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>(1) 校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある生徒指導</p> <p>(2) 生徒・保護者・教員の意味疎通</p> <p>(3) 特に英語・数学・国語を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立</p> <p>(4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>(1) 校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある生徒指導</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1) 校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある生徒指導			(1)
① 法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導	A	A	① 概ね達成できたと思われる
② 「明るく」「正しく」「仲良く」でも「厳しく」を意識した生徒指導	A	A	② 概ね達成できたと思われる。
③ メリハリのある行事企画と充実	A	A	③ ユニバへの校外学習を実施した。
(2) 生徒・保護者・教員の意味疎通			(2)
① 家庭と学校との綿密な連携	A	A	① 概ね達成できたと思われる。
② 効果的なLHRや学年集会の実施	A	A	② 概ね達成できたと思われる。
(3) 特に英語・数学・国語を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立			(3)
① 『立腰』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり	A	A	① 概ね達成できたと思われる。
② 競争することを意識した学習への取り組み	A	A	② 概ね達成できたと思われる。
③ 毎日早朝テストを実施することによる毎日の家庭や通学時間を利用した学習の習慣の確立	A	A	③ 概ね達成できたと思われる。
④ 定期考査前の補習の実施	A	A	④ 概ね達成できたと思われる。
※総合進学コースの目標			
① 良き生活習慣の確立	A	A	① 概ね達成できたと思われる。
② 模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値50をめざす。	B	C	② 高2学年に向けての課題である。
③ 高1終了段階で英語検定3級の全員合格をめざす。	B	C	③ 約20名合格できていないため、今後の課題である。
※特進I・II類コースの目標			
① 良き生活習慣の確立	A	A	① 概ね達成できたと思われる。
② 模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値50を下回らないこと。そして、全国偏差値60をめざす。	B	C	② 特に数学科においては、高2に向けての課題である。
③ 高1終了段階で英語検定準2級の全員合格をめざす。	B	C	③ 高2に向けての課題である。
(4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通			(4)
① 学年担当者会議の可能な限りの実施	B	C	① 時間的な余裕がなく、今後の課題である。
② 職員室内における日常の会話による生徒の情報交換	A	A	② 概ね達成できたと思われる。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
[C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<p>高2学年をむかえるにあたり、特に学力強化が必要であると思われる。進路指導部などの各部と協力し、まずは各自の目標設定をしっかりとさせ、またスタディサプリなどを有効的に活用して、学力強化を進めていきたい。</p>

部署名	高校2年	担当者	漁野篤史
-----	------	-----	------

「より素晴らしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協働力を高め、人道を知り、公共心を育む。 2. 自律性を養い、自己効力感を高める。 3. 知識を身につけ、好奇心を育み、基礎学力と学習習慣を身につける。 (100人以上に偏差値46以上、40人以上に偏差値52以上の学力をつける。)
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>校訓「正思明行」を体現した、自走できる生徒づくり (三五力の完成)</p>

2. 令和5年度に取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 協働力を高め、人道を知り、公共心を育む。 (1) 役割を与え、励まし、協力し合える環境を整える。 (学級活動の活性化) (2) 他人のために、できることを考えさせる。 (人権、宗教、青少年赤十字活動)	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・上宮祭において、実行委員会を組織し一定の成果をあげた。 ・年間を通じての人権教育以外に、特に取り上げることはなかった。
2. 自律性を養い、自己効力感を高める。 (1) 自分達のことは自分達でできる様にする。 (日直・係) (2) 「やればできる」を合言葉に、達成感を感じる取り組みを行う。 (褒めて育てる)	C	C	
3. 知識を身につけ、好奇心を育み、基礎学力と学習習慣を身につける。 (1) 模試や定期考査に対する意識を高め、準備と振り返りの習慣を身につける。 (自由参加型の講習と表彰制度) (2) 学力不振層に対する強制補習の通年実施 (集い)	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・集いやマナビジョンを用いて、模試に対する高い意識を持たせることができている。 ・集いは一定の成果を上げている。
	B	B	

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

	目標	国	数	英
偏差値46以上	100人	46人	36人	52人
偏差値52以上	40人	25人	17人	22人

・国語、数学、英語、いずれの教科に関しても目標達成はできなかった。授業方法や講習 (thru) や自学習 (BEMBU) 休日の自習教室などを活用し、成績向上に努めたい。

・徐々に進路意識が高まっている。自分の強みを認識させ、全員の進学先 (進路先) を確保させたい。

部署名	高3学年	担当者	茶田 昌蔵
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①校訓「正思明行」・学順の実践に基づいた人間力の向上</p> <p>②生徒・保護者・教員的意思疎通</p> <p>③進学指導</p> <p>④担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>① 大学進学実績の向上</p>

2. 令和4年度の取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①・校則遵守の徹底 (立腰、挨拶、服装、頭髪、言葉遣いなど) ・行事等では積極的に参加するよう促し、生徒一人ひとりに責任を持たせる。 ・探究学習を利用して、プレゼンテーション能力を身につけさせる。	A	C	・校則を遵守するよう指導をしてきたが、中々全員がきちりと守ることはできなかった。 ・自発的に行動することができず、積極的に参加することはできていない。 ・全員が発表に向けて一生懸命に取り組んだ。
	B	C	
	A	A	
	A	A	
② 学期に1回は必ず生徒との二者面談を実施し、日々生徒の様子を把握して、保護者と常に連絡を密にする	A	A	・しっかりと生徒の状況を把握できた。
③・特I大学入試対策 ・特II大学入試対策 ・総合進学大学入試対策	A	A	・共通テストに向けて各教科の協力もあり、生徒の学力を向上させることもでき、結果も出すことが出来た。 ・特I同様粘り強く講習も行き成果を上げることは出来ている。 ・最後まで諦めずに粘り強く取り組み、特に一般後期まで受験した生徒が大きな成果を上げている。
	A	B	
	B	B	
④・担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全職員が同じ方向性で指導にあたり、全員で生徒の夢・希望を応援する。	A	A	・大学入試に向けて積極できに意見交換をして、高い進学率を残すことは出来た。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<p>大学入試に向けて、生徒・教員・保護者が一丸となって取り組むことが出来たと実感している。</p>
--

部署名	人権教育	担当者	柴田 直毅
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①学年の現状に合わせた新しい教材を使った教案の作成</p> <p>②育てる人権教育の実践</p> <p>③いじめ防止対策委員会の年間計画に基づく人権教育の実践</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>学校生活の中で人権問題(友達との関係、SNS、LINEによる問題など)を認識する。</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>①教材の開発 生徒の実態を考慮した教材の開発 SNS、インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する</p>	B	B	インターネット、SNSによるトラブル、アップロード、スマホ依存症の学習動画を学習して、意見アンケート記入を実践しました。
<p>②育てる人権教育の実践 自他を理解した集団づくり(クラス、クラブ活動) 相手の立場、気持ちを理解する</p>	B	C	震災発生時の危機対応、について学習しました。人権教育の趣旨に相応する内容を検討すべきでした。
<p>③生活アンケート 生活アンケートを各学期の最後に実施する、 差別、偏見をテーマにした人権教育LHRの実践</p>	B	B	生活アンケートを基に、いじめ防止対策委員会を通じて、さまざまな意見、今後の対策を確認することができました。アンケート実施前後で問題が生じることもあり、直接結びつかないこともありました。

※**遂行度**：各項目の進捗状況 / **達成度**：各項目の達成・評価状況

※**評価基準**： A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容

<p>各学年の指導課題、目標に応じた学習、計画案を検討していきたいです。</p> <p>1年生はインターネットと人権、差別、部落問題。</p> <p>2年生は国際理解、在日外国人問題。</p> <p>3年生は就職差別、社会における人権問題。</p>
--

部署名	保健管理	担当者	西巻 裕子
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る 2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践 3. 健康相談活動における心のケアと各分掌と連携、情報の共有化 4. 学校保健組織活動の円滑な推進とチーム力の促進
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>健康教育発信のため HP 開設、保健情報の情報共有及び一元化、組織的連携のため ICT 化を図る。</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1. 保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る ① 感染症の予防と発生時の迅速な対応、学校保健情報の集約 ② 救急処置の迅速な対応と連携が取れるマニュアル化 ③ 配慮を必要とする生徒の支援について、個別のニーズに応じた支援のあり方を示し、共通理解を図る 2. 自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践 ① けがの予防、感染症や生活習慣病、がん教育等の予防教育（数値化をして具現化、ICTを活用した予防教育） ② 本校が抱える健康課題で心の健康について、自尊心を大切に、心因性体調不良の減少を目指す心の教育の実践 ③ 保健室 HP の充実、ICT を活用して、心身の健康に関する情報発信を推進する。特に Health care news を読んでもらえるようにアンケートをとり、工夫・改善を行う。	A B A B B C	A B A B B C	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナが5類に引き下げられたが、感染力は高く、インフルエンザとの同時流行したため、学級閉鎖を余儀なくされた。感染状況の情報収集を迅速に行い、感染拡大を防止することは重要である。 ・救急搬送件数が増加、校内のどの場所においても応急処置が適切にとれるようにマニュアル化とシミュレーションが必要。AED 機種変更に伴いメンテナンスが安心になった。 ・個別のニーズに応じた支援を学年団との連携・協力のもと共通理解が図られ、養護教諭の専門性を発揮する事ができた。 ・生活習慣病起の睡眠、食事についてアンケートを行い、生活の質（QOL）を高める取り組みには一定の成果があった。 ・過換気症候群、心因性による失神、OD 等や教室へ入りづらい生徒が昨年よりも増加し、常に誰かが、保健室に長時間いることが続いた。 ・Health care news は生徒の興味、関心が湧く内容に工夫することができた。保健室の HP 作成により心身の健康に関する情報発信をしていくことが今後課題である。
3. 健康相談活動における心のケアと各分掌との連携、情報の共有化 ① 心の問題を的確に把握するために生徒一人一人への声がけと全教職員との情報交換を密に図る ② SC と生徒指導部教育相談係、関係職員との組織的連携、共通理解を図る。(ICT を活用した予約調整、相談) ③ 不登校に至る予兆・前段階での把握と対応で減少を目指す 4. 学校保健組織活動の円滑な推進とチーム力の促進 ① 学校保健委員会、労働安全衛生委員会の円滑かつ組織的運営の確立、臨時委員会の適宜開催 ② 生徒保健委員会の主体的な活動のサポート（本校独自性のある啓発活動、心身の健康に関する探究・学び合いと情報発信、評価につなげる） ③ 災害共済請求給付業務に関する学園本部との連携	A B B B B B B	A C B B B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・常に一人一人への声がけをして問題が隠れていないかを探った。また、気になる生徒がいた場合は SC に相談してアプローチを依頼、相談室を活用して、担任等とも連携を深めた。特にいじめや不登校に至らないように未然防止に努めた。生徒との信頼関係を構築して支援していく課題があった。 ・不登校支援では SC との関わりが強くなったが、その他のメンタルケアで医療に繋げる必要な生徒には SC からのチーム支援は不十分であった。 ・学校保健委員会の開催は中・長期的課題であるが、労働安全衛生委員会、不登校対策支援会議等では情報共有ができた。 ・生徒保健委員会ではアンケートにより本校の健康課題の実態を洗い出し、前期では睡眠、後期では食事、勉強やスポーツのパフォーマンスの向上を目指した取り組みは、生徒一人一人の生活習慣改善を身近に感じられる意識改善ができた。 ・災害共済請求・給付業務は2年目を迎え、滞りなく業務が遂行できた。

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：
 A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
 C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ・感染症発生時の迅速な対応、感染拡大の予防ができるように、引き続き健康観察を徹底して情報共有を図る。 ・健康相談活動では、養護教諭がコーディネートを行い SC や担任・学年団、顧問等とチームとして連携・情報の共有化を図る。特に不登校支援、教室に入りづらい生徒のステップ支援を重点的に行う。 また、生徒指導部主体で SC を中心とした教育相談業務の組織的推進を ICT の活用で連携強化を図り、情報共有を行う。 ・将来の健康・保持増進のための健康教育活動となり得る「がん教育」「生活習慣病」等についても、学校医等の専門的機関への助言を仰ぎ、保健体育科と連携して、保健教育活動の取り組みを試みていく。そのために研修会に積極的に参加する。 ・生徒保健委員会活動では本校の健康課題に応じて主体的な学び合い、独自性のある予防啓発活動、保健教育活動の企画を目指す。 ・ICT の活用を見出し、保健室業務の効率化ならびに生徒保健委員会活動や心身の健康に関する情報発信においても重点的に推進していきたい。 ・スポーツ振興センター災害共済請求給付業務は学園本部と連携して迅速に請求・給付業務を行う。
--

部署名	図書教育	担当者	植田梨絵子
-----	------	-----	-------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>①学校司書と協働した図書室の運営管理の充実</p> <p>②書籍の充実</p> <p>③委員会を主体とした読書啓発活動の推進</p> <p>④図書室行事や利用者向上のための広報活動</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>・OPAC 利用や蔵書管理システムの有効活用</p> <p>・公的図書館や近隣大学との連携</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 学校司書と協働した図書室の運営管理の充実 ・紀伊國屋書店と連携を図り、業務の効率化や蔵書管理の徹底を行う。	A	A	①常に蔵書チェックを行い、3月末の棚卸では集計結果が揃っている。
② 書籍の充実 ・専門的な視野やジャンルレスな本の選書を心がけ、さまざまな書店や図書館と意見交換を行う。	A	A	②紀伊國屋書店に選書を依頼し、70冊程度の様々なジャンルの書籍をリストにして分散して発注。目を引くような本が多く、さまざまな角度から読むことができる本ばかりだった。
③ 委員会を主体とした読書活動の推進 ・委員の条件を提示し、積極的に活動ができる生徒を募集し、図書室利用や読書推進に貢献する生徒を育てる。	B	C	③図書室を利用する生徒も増え、委員会の活動も周知できてきたが、後期で継続することができない事象が重なり、思うような活動が進められなかった。
④ 図書室行事や利用者向上のための広報活動 ・図書室のイベント企画を計画的に行う。 ・活動の機会を増やすよう探究やHR、各教科での活用を促す。 ・教職員の利用を促進させる。 ・授業や行事で活用する連絡を徹底し、作業の計画が崩れないようにする。 ・授業で利用しやすいよう工夫をする。 (資料の整備や本の提案など)	A	A	④活動の計画書を詳細に考え、それに則して実行できるように準備をしていくべきだった。不測の事態になっても、生徒の活動や学び、教職員の利用に影響が出ないように心がけたい。生徒ももちろん、教職員の読書活動も併せてアピールしていくよう、司書の方々と協力して改善していきたい。
	B	B	
	B	C	
	B	B	

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<p>紀伊國屋書店との業務提携により、さまざまな改革が整ってきている。保護者の利用も始まり、来年度は地域への開放も目指していきたい。また、廃棄本の処理を進めていき、スペースを確保して、より魅力ある図書室を提案していきたい。司書の方が常駐することで、本の貸出や授業利用だけでなく、精神的な安定を求める場所にもなりつつある。このまま読書スペースだけではない空間をつくっていき、努めていきたい。教職員の利用がまだまだ低いため、教職員に向けたアプローチも引き続き考えていく。広報活動（図書だよりや広報ポスターなど）の頻度を上げて、イベント告知や興味関心を高める内容をさらに精査していき、図書室から学校の魅力が伝わるようアピールをしていきたい。</p>

部署名	広 報	担当者	湊 昭嘉
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度生徒募集につながる広報物の発行 ・ブログの更新回数や SNS を活用した効果的な広報活動の検討・実施。 ・近隣地域に向けた広報活動の充実。(道路沿いの横断幕、バス側面の広告等) ・入試対策部及び新しい広報委託業者との連携強化。
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園財政を鑑み、広報効果が低い紙媒体や説明会ブースを削減し、広報費用のコスト削減を図る。 ・今後の広報戦略における立案を図る。

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>(1) 本校ホームページの更なる改良</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報委託業者と連携を図り、ホームページが利便性の高い状態を維持する。 	B	B	委託業者との連携により、学校案内・ポスター・ホームページの作成及び運営を行うことが出来た。また業者と月1回の広報戦略に関する定例会を開催した。
<p>(2) ブログの更新回数増加とアップ内容の精査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのアップ内容を精査し、日常的に学校の情報を発信することを目指す。 	C	C	行事に関しては、内容の詳細が分かる文章と写真をアップし、内容の充実を図っている。インスタグラムは頻繁に更新が出来ていたが、HPのブログ更新は滞ることがあった。
<p>(3) 近隣地域に向けた広報活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見やすく、インパクトのあるものを作成する。 	C	C	今年度は懸垂幕の掲示と太子町広報誌への広告掲載を行った。今後も地元太子町へのPR活動を続けたい。
<p>(4) SNS活用の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代に合わせた広報活動を追究する。 	B	B	さまざまな情報を集めながら研究をし、積極的に検討を進めた。
<p>(5) 学園財政を鑑み、広報費用の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実績をもとに費用対効果の高いものを選定し広報活動を行う。 	A	A	概ね前年度通りのブース数及び広告本数で広報費用を抑えることが出来た。前年度の踏襲だけでなく、より厳しく費用対効果の精査が必要である。

※遂行度： 各項目の進捗状況 / 達成度： 各項目の達成・評価状況

※評価基準： [A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった]
 [C あまり進んでいない / あまり成果がでていない D 進んでいない / できていない]

3. 今後取り組む内容

<ul style="list-style-type: none"> ・広報委託業者との連携のもと、学校の魅力の伝え方を模索していきたい。今年度、オープンキャンパス・入試説明会ともに参加者数が増加した。専願率が90%を超えたことは、一定の効果があったものと考えられる。令和7年度入試においては、専願率100%を目指した取り組みの検討を行う。 ・新生及び在校生に対するアンケートの集計・分析により、上宮太子の強みと課題を明確化することが出来た。広報物の作成時期を従来よりも前倒したスケジュールにより、入試対策部にとって外部にアピールする適当な時期に、必要な広報物が揃えられるような支援をしていきたい。

部署名	事務室	担当者	松井 保
-----	-----	-----	------

「よりすばらしい上宮太子高校にするために」

1. 令和5年度の重点目標

<p>(短期目標) ※本年度に取り組む目標</p> <p>① 生徒・保護者・教員とのコミュニケーションの充実</p> <p>② 企画・運営に関する事務</p> <p>③ 校内・教育環境のさらなる整備</p>
<p>(中・長期目標) ※数年計画で達成したい目標</p> <p>生徒獲得に向け、学校の課題を真摯に考え、時代や地域のニーズを踏まえた特色のある学校づくりを教員とともに実現していく。</p>

2. 令和5年度取り組み内容

内 容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
<p>① 生徒・保護者・教員とのコミュニケーションの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員や生徒、保護者の意見を真摯に受け止め、きめ細やかに事務処理を行っていく。また、生徒及び保護者への対応についても、相手の立場に立ち、親身に接することを心がける。そして、安心できるような事務室としての役割を果たす。 ・上宮学園本部事務所との連絡を積極的にとり、相互の連絡ミスを防ぎ、業務の効率化を図る。 ・常に業務内容の必要性や効率性を考え、事務処理の質の向上に取り組む。また、業務改善が必要と判断すれば、速やかに改善策を模索し、改善に努める。 	B	B	<p>学内においては周囲の声に耳を傾け細やかに対応することが出来ていると思われる。</p> <p>また、特に生徒・保護者対応に関しても安心していただけていると感じている。</p> <p>現状のレベルに満足することなく、更なる向上に努めたい。</p>
<p>② 企画・運営に関する事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の実態を的確に把握し、改善を図る。また、地域の課題にも目を向ける。 ・教員と同じ方向を見据え、同じ目標を共有し、積極的に学校の課題を把握する。また、その課題の改善策を多面的な観点を踏まえながら、提案・実現していく。 	B	C	<p>学園本部とのやり取りにおいては連絡が徹底されていない部分はまだ散見される状況は変わっていないので引き続き取り組みたい。</p> <p>業務改善については必要と思われるものの日々の繁忙に追われて改善を模索するまでには至っていないので、今後の課題であると認識している。</p>
<p>③ 校内・教育環境のさらなる整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び教職員がより安全かつ快適に教育活動に専念できるように進めていく。 	B	B	<p>R5年度は体育館の外装更新など、昨年までの規模の大きい工事が続いたので、予算がつかず計画倒れに終わった案件も多かった。階段壁面の塗装や南北両校門に校名のサインボードを設置するなど、見える部分の改修や1号館管理棟西側の南北ベランダの雨水管を改修し、豪雨対策が出来た。</p>

※遂行度：各項目の進捗状況 / 達成度：各項目の達成・評価状況

※評価基準：
A 予定通り進んだ / 顕著に成果があった
B ほぼ予定通り進んだ / 成果があった
C あまり進んでいない / あまり成果がでない
D 進んでいない / できていない

3. 今後取り組む内容

<p>日常取り組む通常業務以外の部分において、さらなる向上を目指したい。事務教務の連絡を密接に図りながら教務面での課題を事務の目線から改善を提案・実施していきたい。</p> <p>また、施設面においてはまだまだ手を付けなければならない部分が多いので、計画的に取り組む必要がある。</p>

令和5年度 授業アンケート 分析

1. 実施時期

令和5年11月6日（月）・10日（金）・14日（火）、学年別で実施

2. 対象学年

全学年

3. グラフについて

各項目に対して、「高い評価」・「やや高い評価」・「やや低い評価」・「低い評価」の4段階で評価をし、「高い評価」と「やや高い評価」を合わせた評価を肯定的評価と呼んでいます。

①教科別肯定的評価グラフ

各教科に所属している教員の肯定的評価の割合を示しています。

②質問別肯定的評価グラフ（※印は令和3年度から追加）

「授業マナー」…あなたは、この授業でマナー（私語・いねむり等をしない）を守っていますか？

「授業参加」……あなたは、自分なりの目標を持って、この授業に積極的に参加していますか？

「家庭学習」……あなたは、この授業に必要な家庭学習（予習・復習等）をしていますか？

「情報収集」(※)……この授業に関する課題や関心事項についてインターネットや図書等を活用して情報収集していますか？

「話し方」……先生の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか？

「板書等」……先生の黒板やICT機器・プリント等の使い方（体育・芸術等は実技指導）は良いと思いますか？

「要点強調」……先生の授業は、重要なところが強調されていますか？

「授業難度」……授業の学習内容のレベルは、ちょうど良いと思いますか？

「授業速度」……授業を進めるスピードは、ちょうど良いと思いますか？

「理解確認」……先生の授業は、生徒の理解を確かめながら進められていますか？

「質問発言」……先生は、生徒の質問や発言を促し、ていねいに対応していますか？

「授業展開」……授業の進め方（組み立て）は、興味関心を引き、学習意欲をわかせると思いますか？

「教員熱意」……先生の授業に熱意を感じますか？

「公平対応」……私語などに対して適切な対応が取られ、公平で思いやりのある授業ですか？

「満足度」……この授業は、あなたにとって良い授業だと思いますか。

「授業成果」(※)……あなたはこの授業で学んだことを自分でまとめて表現できるようになりましたか？)

この内、「授業マナー」・「授業参加」・「家庭学習」・「情報収集」は生徒の自己評価になります。

4. 分析

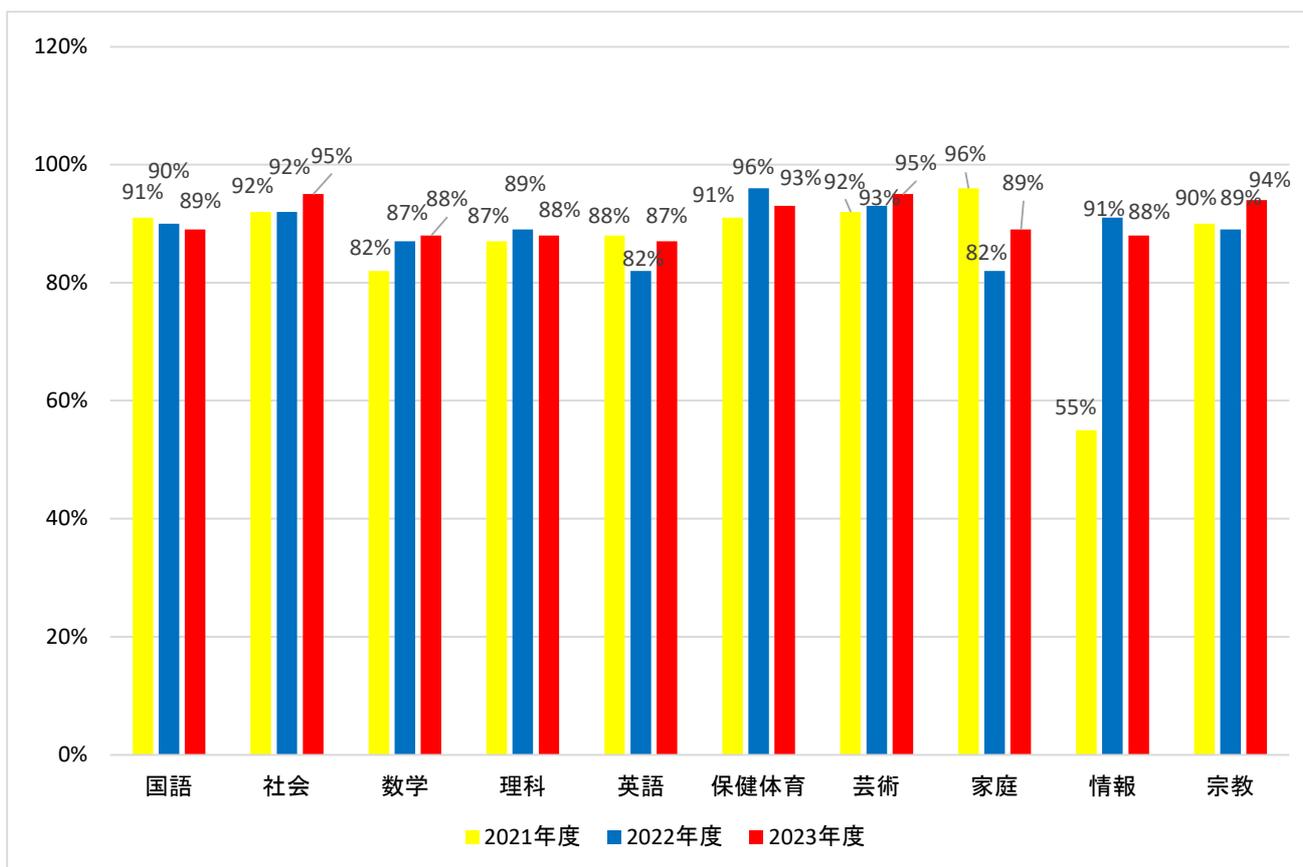
①教科別肯定的評価

約6ヶ月間授業を実施して、生徒がどのような受け取り方をしているか、また、どこに問題点があるかを確認し、その後の授業に反映できるように行った。

ここに載せたグラフは、全教員の平均であり、かなり経験豊富な教員から経験がまだ少ない教員まで含まれている。各教科でお互いに情報交換をしながら、全体的にレベルアップをしていけるように活用したい。

教科別肯定的評価グラフにおいて、各教科とも80%以上になることを目標としている。今年度もすべての教科で目標の80%以上をクリアできており、昨年度下降気味であった英語科と家庭科は大きく改善できている。また国語科においては僅かずつとはいえ連続して下降している点は注意が必要と考えられる。過去3年間のグラフを比較すると、全体としてはもともとかなり高い評価を受けているので、1～2ポイント下降することは容易にあり得るが、下降したという事実を軽く受け止めることなく、その原因をしっかりと考え次年度では必ず向上するよう期待したい。

令和5年度 授業アンケート (①教科別肯定的評価グラフ)



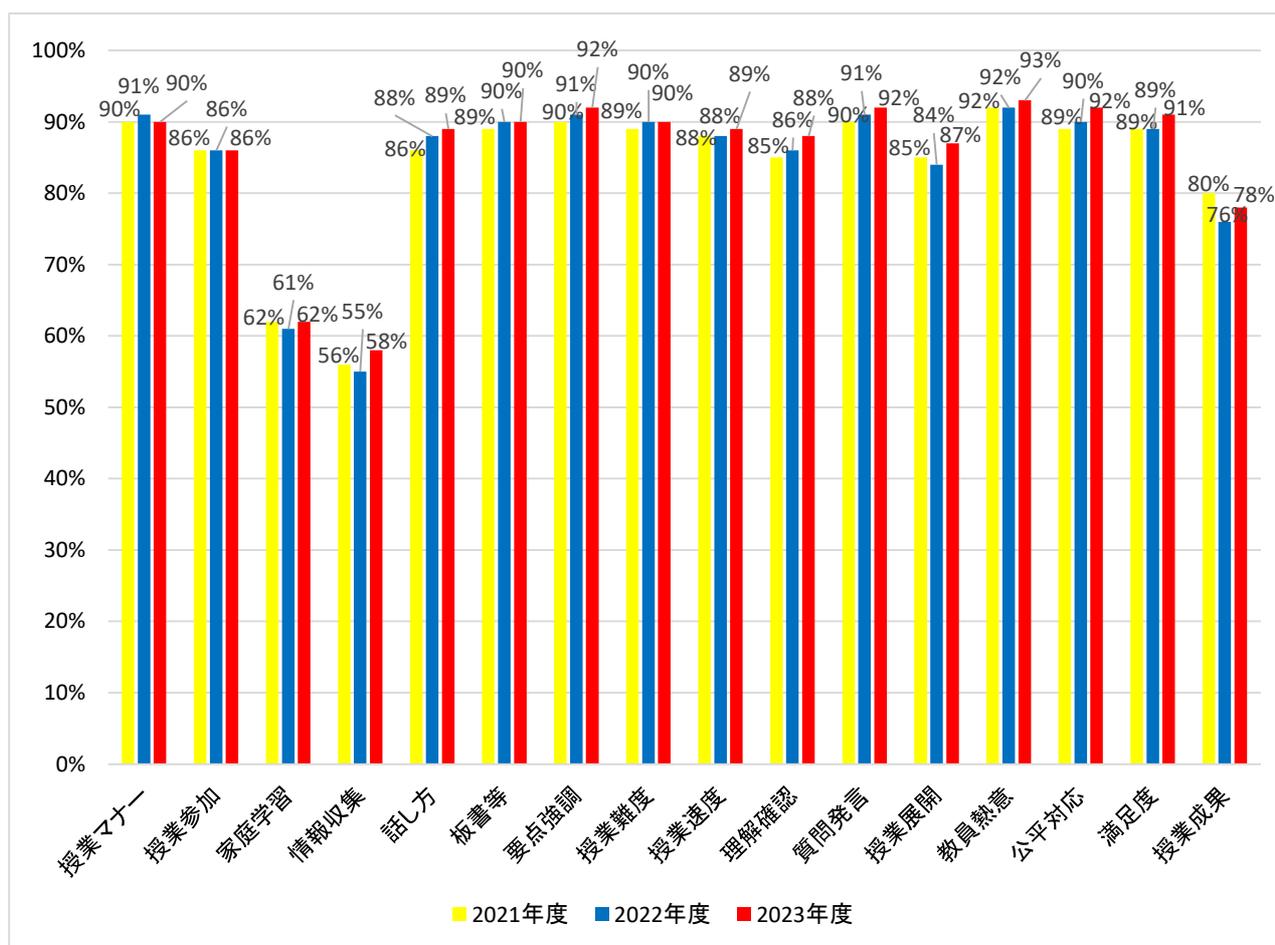
②質問別肯定的評価

質問別肯定的評価グラフにおいては、引き続き注意を払っている家庭学習の習慣が昨年度に比べて微増であった（自己評価の「家庭学習」は実技教科を含んだ数値であるため40%以上が目安になるが、本年は61%）。課題の設定やICTの活用など、工夫を凝らして更なる向上を目指していきたい。

他に、もう一つ、生徒の満足度を左右する「授業展開」の評価については、ここ最近では80%台を守ることができており、昨年度よりも延びている。しかし、「授業成果」に結びついていない印象があり、「理解確認」や「授業参加」を促すなど改善の余地があると思われる。ただ、今年度も全体として見れば、各項目で昨年度を上回る結果が多く出ており、評価できるポイントである。高い結果が出続けているという事は、下降する可能性の方が高くなる傾向が出てくるが、そのことに甘んじることなく、各教科会等で話し合い工夫することが大切である。

後、一昨年度から追加した「情報収集」と「授業成果」の2項目（3.グラフについて参照）については、昨今のインターネット社会における時代の変化から、自ら考え、自ら情報収集し、問題解決に当たることができる人材育成に繋がればとの思いからであるが、ようやく3年分を比較することができるようになった。まだ傾向を読み取ることは出来ないが、今後もこの動向には注意していきたい。

令和5年度 授業アンケート（②質問別肯定的評価グラフ）



令和5年度 学校評価に関する報告書

上宮太子高等学校

1. 令和5年度年間目標

令和5年度の年間目標として、「浄土宗の教えを基盤としながら、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上」という前提のもと、「基本的な生活習慣を身に着けたうえで、細やかな指導により学力面を向上させ、各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させること。これらの実現に向けて各部署それぞれが連携して職務に取り組み、各教科が授業力の向上のために研究に取り組むこと。」を掲げた。

2. 各部署の目標と評価

①教務関係

【重点目標】

1. 教務運営システムの整備・効率化
 - ・教務クラウドシステム(BLEND)の円滑な運用
 - ・就業システムを円滑に運営するため、事務所・総務との連携
2. 有効な指導体系の継続検討
 - ・考査規定、5段階基準等の教務内規の再検討
 - ・通信手段を用いた教育による単位認定の検討
3. 国際理解教育の推進
4. 学校行事の充実
 - ・生徒募集に繋がる行事の精査と充実
 - ・コロナ禍明けにおける学校行事実施に向けた企画・運営の検討

【評価】

- ・業務内容を明確化し、点検・整理を行った。教務クラウドシステム「BLEND」導入2年目となり生徒・保護者・教員に定着しつつある。
- ・観点別評価に加え、内規改定の検討を図り、附記において追記を行った。
- ・海外修学旅行・海外語学研修は実施できなかった。高1・2でオンライン英会話のみ実施することができた。
- ・各部署との連携を図り、先生方の協力のもとで学校行事を円滑に進めることが出来た。実務面で出た課題改善に向けて、更に内容の充実を図りたい。
- ・不登校生徒に対して通信手段を用いた教育による単位認定については、年度途中で内規附記に追記を図り、2学期から導入した。今後、制度の運用面においての精査を図りたい。

②生徒指導関係

【重点目標】

1. スクールカウンセラーと教職員との連携および教職員への啓発
2. 生徒会活動、委員会活動、広報活動、クラブ活動の活性化。
3. 校訓・学順の実践、生徒指導の推進と問題行動の予防強化、生徒の道德意識、規範意識の向上
4. 生徒の愛校心の向上

【評価】

- ・カウンセラーによる教職員への研修会等は予定通り行う事ができたが、校外の研修会の内容を全教員に報告できるように努めたい。
- ・不登校対策委員会にて適宜の対応が出来た。
- ・各行事において、生徒会役員が主体的に動くようにすることが難しくなっている。また、委員会活動は担当教員任せになっている部分が多く、総括ができなかった。
- ・一律の基準による生活指導がまだまだ出来ていないのが現状であるが、定期的を実施している身だしなみチェックに関しては、生徒も気をつけて整えるようになっており、一定の成果は出ている。

③進路指導関係

【重点目標】

1. 進学実績の目標達成（3年）
 - ・国公立大 目標 14 以上
 - ・関関同立 目標 25 以上
 - ・産近甲龍 目標 100 以上
2. 基礎学力の向上（1、2年）
 - ・進研模試偏差値 ss52 以上を学年の 2 割以上
ss46 以上を学年の 5 割以上
 - ・模試の有効活用による成績向上
 - ・「自走」の推進と教員の関わりの指導
3. 「iPad が動く学校」の展開への意欲的は挑戦
 - ・Microsoft のプラットフォーム整備
 - ・iPad の新しい使用法の模索および教員の使用推進
4. 主体性を育む教育
 - ・探究活動の推進
5. 戦略的改革
 - ・生産性の高い進路指導体制の構築
 - ・新学習指導要領への対応と教員への啓蒙
 - ・学校全体の意識改革

【評価】

- ・国公立大 目標 14 以上 → 実績 17、難関校複数合格
関関同立 目標 25 以上 → 実績 17
産近甲龍 目標 100 以上 → 実績 87
- ・進研模試偏差値 ss52 以上を学年の 2 割以上 → 達成に大きく至らず
ss46 以上を学年の 5 割以上 → 達成に大きく至らず
- ・新しく「TEAMS」を整備した。ロイロノート以外の拡充が必要。
- ・探究活動の方向付けや生徒への指導など、まだ発展途上。教員研修も必須である。
- ・将来の進路に意識を向けさせるシステムはほぼ構築されているが、教員への啓蒙、意欲的な学校改革にはつながっていない。

④入試対策関係

【重点目標】

1. 受験者数の安定的確保に向けての広報活動
 - ・主要な公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす
 - ・受験生や保護者への直接的なアプローチ
 - ・オープンキャンパス参加者数の確保
2. 効率的な広報物を制作・活用
 - ・ミニパンフや行事リーフの配布
 - ・デバイスを活用したきめ細かい広報活動
3. 情報の収集・共有化
 - ・生徒の情報収集および校外で得た情報の教職員間での共有
 - ・上宮学園中学校、上宮高校との情報共有

【評価】

- ・オープンキャンパスや入試説明会、外部の説明会において、昨年より多くの受験・保護者の参加を得て上宮太子を知っていただくことができ、校内行事や学校見学を通じて足を運んでもらい、受験者数の増加に繋げることが出来た。
- ・中学・塾訪問では、外部説明会・校内行事に参加してくれた生徒の話や、在校生の近況報告を詳細に行うことで安心して受験生を送ってもらえるようにした。
- ・学校見学リーフレットや出前授業リーフレットはかなり効果的であった。
- ・渉外が外部から聞いてきた情報について、渉外担当者の中では共有できるが、校内の先生方との共有化ができていなかった。

⑤教科

【重点目標】

- ・授業の厳正化、および学力、指導技術の向上
- ・新学習指導要領への対応と ICT 活用の研究
- ・大学入試問題等の研究推進及び対策
- ・教科会の活性化並びに研修会への積極的な参加

【評価】

- ・教科により、教員間の情報共有や意見交換は行われている。研修会への参加はあまり進んでいないが、参加できた研修会の内容は共有できている。
- ・家庭学習定着のための課題は工夫が進んでいる。特に ICT を用いた課題作成が進んでいる。また、補習・講習は各教科ともに積極的に実施しているが、生徒の学力に応じたきめの細かい設定が出来るようにしたい。
- ・新学習指導要領に基づく入試を目前に控え、各教科で研究が進んでいる。模試対策や事後の活用など教科ごとに工夫されている。
- ・実技教科においても ICT 活用の研究も進んでおり、積極的に取り入れられている。なお、観点別学習状況評価については作品から判断するのは難しく、引き続き協議していく必要がある。

⑥学年

【重点目標】

1. 校訓・学順の実践メリハリのある生徒指導
2. 公共心、協働性、自律性を育てる
3. 学習習慣の確立と学力向上および適切な進路指導
4. 担任団・学年担当者間・各分掌・保護者との連携および意思疎通

【評価】

- ・各学年とも年度当初の目的は概ね達成できた。基本的な生活習慣や身だしなみについては、学年を通じて今後も取り組んでいきたい。
- ・各学年とも生徒の実態に応じた取り組みをしているが、自発的に行動することができず積極的に参加することができない生徒がいる。今後も継続して取り組みたい。
- ・学年の進行に応じて工夫がなされ、学習の成果が出ている部分もあるが、英検など達成できていない目標もあるので引き続き取り組みたい。3年生は各コースとも最後まで諦めずに受験し、一般後期入試で合格を勝ち取った生徒も多く、進学実績は素晴らしいと言える。
- ・ロイロノートや BLEND 等の活用が更に進み、学年内に止まらず教職員全体の情報共有や保護者との連携も密になってきている。

⑦その他

【重点目標】

1. 学年の現状に合わせた新しい教材使用による教案の作成、いじめ防止対策委員会の計画に基づく人権教育の実践等
2. 保健管理の組織的推進、自立的な健康の保持・増進、健康相談活動における心のケアと各分掌との連携・情報共有等
3. 学校司書との協働による図書室の運営管理の充実、委員会活動を主体とした読書啓発活動の推進、利用者向上のための広報活動等
4. 次年度生徒募集につながる広報物の発行、ブログやSNSの活用、近隣地域に向けた広報活動の充実、入試対策部との連携強化等
5. 生徒・保護者・教員とのコミュニケーションの充実、校内・教育環境の更なる整備等

【評価】

- ・生活アンケートを基に、いじめ防止対策委員会を通じて様々な意見や今後の対策を確認し、差別・偏見をテーマに人権教育を実践できたが、アンケートの内容と直接結びつかないこともあるなどの問題改善も必要である。
- ・新型コロナが5類に引き下げられたとはいえ感染力は高く、感染状況の情報収集を迅速に行い、感染拡大を防止することは重要である。また、救急搬送件数が増加傾向にある中で適切な応急処置のためのマニュアル化とシミュレーションが必要、など課題はあるが、全体的には個別のニーズに応じた支援を学年団との連携・協力のもと共通理解が図られ、養護教諭の専門性を発揮することが出来た。
- ・紀伊國屋書店との業務提携により、さまざまな改革が整ってきている。保護者の利用も始まり、来年度は地域への開放も目指していきたい。司書の方が常駐することで、本の貸出や授業利用だけでなく、精神的な安定を求める場所にもなりつつある。広報活動（図書日よりや広報ポスターなど）の頻度を上げて、イベント告知や興味関心を高める内容をさらに精査していき、図書室から学校の魅力が伝わるようアピールをしていきたい。
- ・委託業者との連携により、学校案内・ポスター・ホームページの作成および運営を行うことができた。ホームページのブログ更新が滞るなどの問題点はあるが、今年度もオープンキャンパス・入試説明会ともに参加者数が増加した。専願率が90%を越えたことは、一定の効果があったものと考えられる。
- ・今年度は体育館の外装更新など、昨年からの規模の大きい工事が続いた。階段壁面の塗装や南北両校門に校名のサインボードを設置するなど、見える部分の改修や1号館管理棟西側の南北ベランダの雨水管を改修し、豪雨対策が出来た。学内においては周囲の声に耳を傾け細やかに対応することが出来ていると思われる。また、特に生徒・保護者対応に関しても安心していただけていると感じている。

3. 授業アンケート

授業アンケートは2学期に1回実施し、各教員の授業力の向上を図った。資料については別紙に記載している。

令和5年度に関する学校関係者評価報告書

上宮太子高等学校
学校関係者評価委員会

1. 令和5年度自己評価結果について

令和5年度学校関係者評価は、昨年に引き続き学校評価関係者が一堂に会して評価を行う従来の方法で実施することができた。

今回使用した資料は以下の通りである。

1. 学校評価に関する規定
2. 『学校評価』について(職員用資料)
3. 令和5年度 学校評価に関する報告書
4. 令和5年度 授業アンケート分析

まず、令和5年度の年間目標として、「浄土宗の教えを基盤としながら、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上」という前提のもと、「基本的な生活習慣を身に着けたうえで、細やかな指導により学力面を向上させ、各コースからの大学合格者数の数値目標や英検の取得目標を実現させること。これらの実現に向けて各部署それぞれが連携して職務に取り組み、各教科が授業力の向上のために研究に取り組むこと。」を掲げ、その目標に向けて各部署それぞれが年間目標を作成し、実施できた内容と課題を10月の中間報告および年度末の報告において評価した。これらのまとめを上記3の報告書に掲載し、その内容が報告された。結果はあくまでも自己評価であるため、部署によっては若干の評価基準の差異が生じている面も存在する。

上記4の「授業アンケート分析」については、例年11月に全生徒を対象に実施している内容が報告され、その結果に基づいた資料の説明と分析結果が提示された。各評価の年次変化を追うため質問項目は例年通りとした。結果については今年度もすべての教科で目標の80%以上をクリアできており、何れの教科も大きく下降するということなく今後も安定して80%を越えることが期待できる。生徒の自主性に繋がる項目については僅かに上昇傾向にあるが、より改善されるよう工夫が必要である。ここで出た結果は、今後、担当者個人や教科会等で検討、活用されるものである。

2. 令和5年度 自己評価結果についての評価

「各部署の目標と評価」に関しては、各部署ともに細かく適切な目標設定をし、各項目に対して適切に対処していると評価できる。また、各部署間で連携をとりその都度うまく対応しているようだ。ただ、部署によっては継続的に改善すべき課題、検討中の課題、時代の流れに合わせて新たに考慮すべき課題も出てきているようなので、今後とも研鑽をしてより良い学校にしてもらいたい。ICTの活用が進んだことで、学校・保護者・生徒間の連絡も円滑に行える環境が整ってきていることは素晴らしいと言える。

教務関係では、各部署と連携をとり、教員間の協力の下で行事を円滑に進めることができている点や実務面で出た課題に対して改善を図ろうとしている点は評価できる。教務クラウドシステム

「BLEND」はペーパーレスにも役立っており、保護者会の活動の手助けにもなっていて非常に有り難い。不登校生に対して通信手段を用いた教育による単位認定を進めているところは細やかな配慮が行き届いていて安心できる。

生徒指導関係では、定期的な身だしなみチェックを実施する中で生徒自ら気をつけるようになってきているところは評価できる。子供を通わせてみて、誰に対しても同じ愛情を持って接していただいていると実感しており有り難い。主体的な行動ができないとあるが、意欲を持って取り組めるような適切なアドバイスができるようにしていただきたい。保護者会として協力できるように生徒の意見を聞く機会があればよいのではないかと。自信を持つことができれば自ら行動していけると思うので、そのように導いていただきたい。

進路指導関係では、学年ごとに具体的な数値目標が設定されており、特に大学入試結果については目標に近い数字を実現しているところは評価できる。

入試対策関係では、ミニパンフやリーフレットなどの配布や、上宮太子に来校して良さを知ってもらおうとする様々な努力の成果が、受験者数の増加として表れており評価できる。総合進学コースはクラブ活動や校外でのスポーツを頑張りながら大学を目指すにはちょうどいい環境なので、アピールポイントの1つになるのではないかと。InstagramなどSNSをもっと活用することや、先生方の熱意や生徒との距離の近さをもっとアピールするなど更なる工夫を期待したい。

各教科、各学年関係においては、働き方改革の観点から先生方の日々の業務が多いように思うので心配ではあるが、ロイノートやパワーポイントなど ICT を用いての授業が前進し効果が実感できている点、年々変化している大学入試問題に対して意識を高く持って研究・分析に取り組んでいる点、「出前授業」が指導技術の向上につながっている点、大学入試において現役合格率100%を実現した点、BLENDの活用により学年内での情報共有や保護者との連携が進展している点などは評価できる。生徒と一対一で指導していただいている先生方の熱意が非常に素晴らしい。

「授業アンケート」に関しては、先生の熱意や公平な対応、生徒の満足度などほとんどの項目で毎年高い水準を維持していることは評価できる。生徒の家庭学習面が伸びておらず、ICTを活用した教材や課題の作成を工夫されているようであるが、更なる改善をお願いしたい。昨今、全国で教員の不祥事という事案が多いように感じるが、規定の質問事項だけでなく自由記述で意見をもらうことで未然に防ぐことが出来るのではないかと考えていたが、アンケートの最後に自由記述の項目が設けられており、すべての意見に管理職が目を通して聞いて安心できた。今後とも、安心して受けることができる授業であると生徒に感じてもらえるように、これらの取り組みが継続されることを期待している。

3. その他

以上の他に、図書室が生徒にとって利用しやすい雰囲気になっていることはよいことであるし、保護者の図書室利用も可能であると聞き有り難いというご意見もいただいた。また、専願率が90%を越えていることはすごいことであるが、無償化の影響もあるとすると今後私学が私学らしく在ることが課題となってくるのではないかとご指摘もいただいた。施設整備の点では豪雨や暑さなどに対する対策や校舎の改修を順次進めていることには一定の評価をいただいたが、防犯や事故防止の点についてもより安心して生徒が学校生活を送れるように取り組んでいかなければならない。

保護者会、同窓会からたいへん前向きで貴重なご意見をいただくことができ、有意義な話し合いの場となった。よい評価をいただいた部分は自信としてより磨きをかけ、ご指摘を受けた部分については謙虚に受け止め改善していく努力を重ねていきたい。